

特59
637

081651-001-0

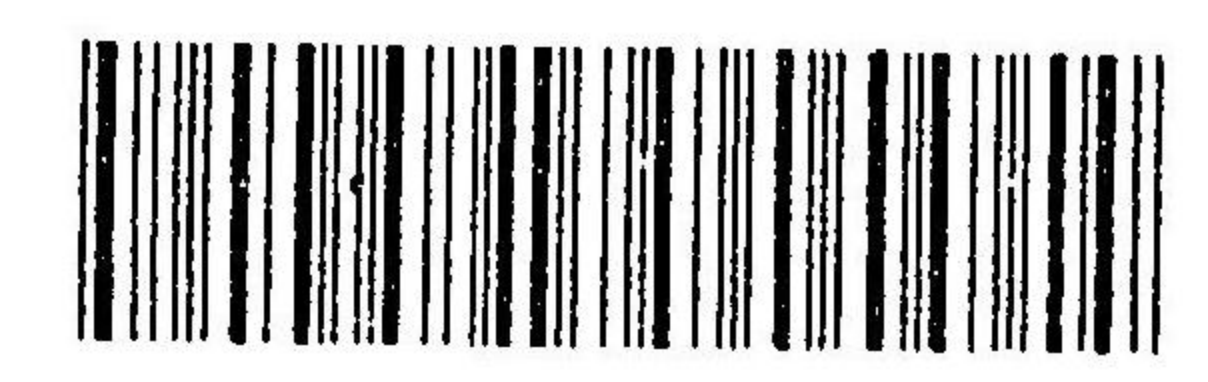
特59-637

小学讀本

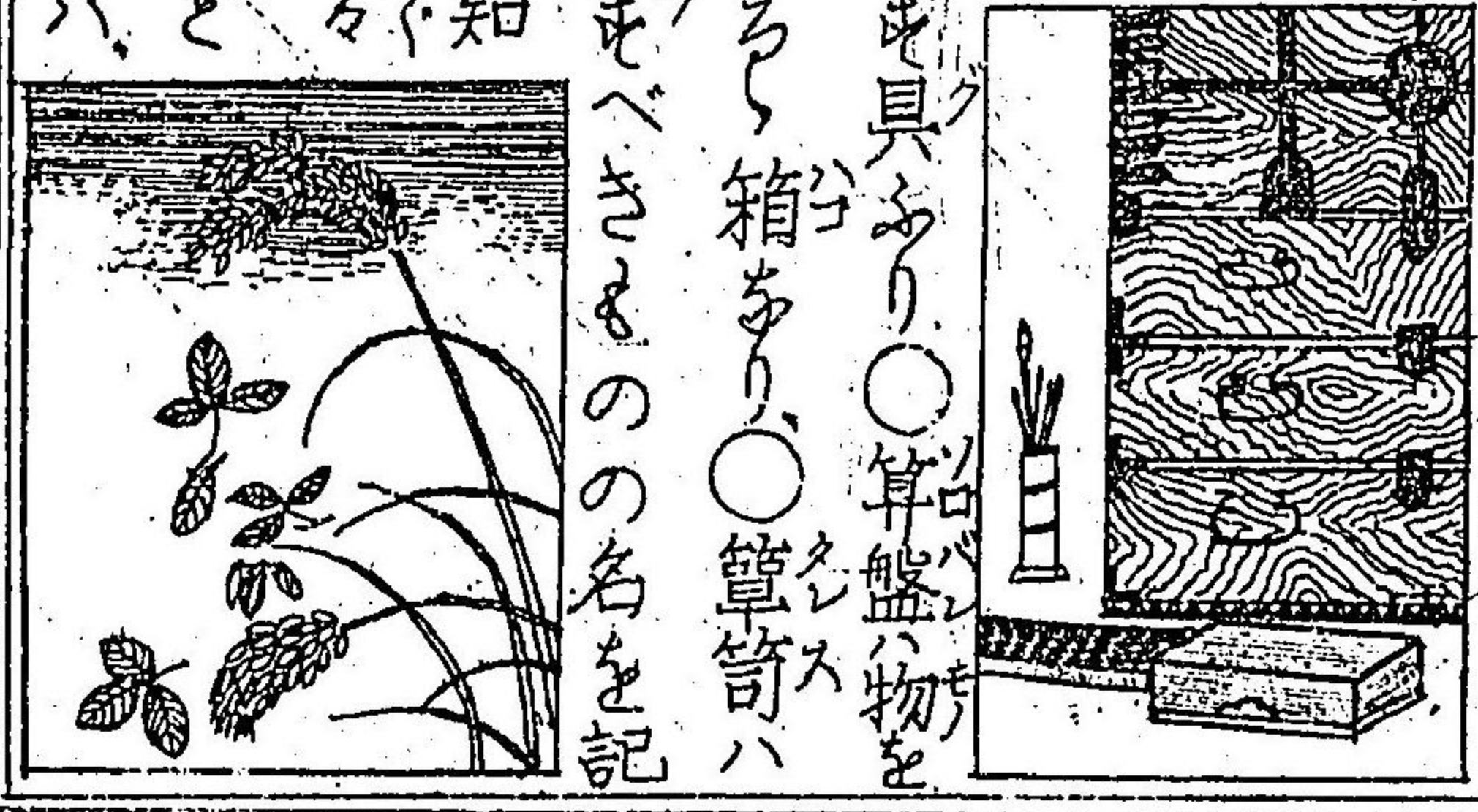
田中 義廉 / 編

M9

DAC-6457



の道なきハ、幼稚のときより能く學
 びて、賢きものとなり、必無用の人と
 ありことあり。○幼稚のときハ先
 日用什器の名を記して其用の方を
 知るべし。○筆ハ字を寫し又畫を寫す具あり。○算盤ハ物を
 數ふる用は供也。○文庫ハ書籍を納る箱あり。○箆笥ハ
 衣裳などを入る器あり。○又平生食むべきものの名を記
 しこれを調理して食物となす法を知
 るべし。○食物となすべきもの種々
 あり、



皆田島は作りて其実を取り、或ハ炊き或ハ炙りて食物と
 するあり、

○第二ハ肉類あり、○肉類とハ魚鳥獸肉
 の類をいふ、此等ハ或ハ炙り或ハ煮て食
 物とするあり

○第三ハ菓あり、○
 菓ハ葡萄、梨、梅、桃、柿、橙、蜜柑の類をいふ、○
 此等ハ多く生みて食し、又鹽は漬けて食
 物とするもあり、



○第四ハ菜蔬の
 類あり、○此等ハ島は植ふるものと野は自生するもの
 とあり、○多くハ煮て食し、又鹽漬とするものあり、○凡て菜

ハ、葉と根とを食物とし、又実を食物とするものあり、○此の
 如く平生用ゐる食物什器をハ能く心を留めて忘るること

とあり也、○人の業は種々ありて、其學ぶべきところ各異あり、然れども先書を読み、字を寫し物を數ふることを學ぶを第一の務とに、これを普通の學といふ、○この學を為さざれば、何きの業をも習ふこと能はば、○故に人ハ六七歳に至れば、皆小學校に入りて、普通の學に従ふべし、○小學校ハ士農工商とも必學ふべきの業を授くる所あり、○學校に到りてハ何事も一心は師の教に順ひ勉強して學ぶべし、○何事を學ぶも勉強を第一とに、勉強せざれば學問は上達せること能はず、○一事はても記し得たる所ハ能く心を用ゐて忘るべからず、○初より多く記せんとせば、却て忘るものあり、故に怠るは日毎に

一事を記し得て、忘れざるときハ、其記し得たる所の事自歳と共に積もりて、多きは至るべし、○他人の一事は讀み、百たびもこれを讀み、他人の十たび習ふ所ハ千たびもこれを習ふべし、○斯の如く勉強して怠りなげせ、ハ必多く事を記し得らるべきなり、○愚あるものも、多く事を記し得るときハ、無用の人たることを免るべし、○學校にてハ、授業の暇は、遊歩の時間あり、○此時間ハ、遊歩場に出でて、身を動かし、心を慰むべし、○怠なく勉強したる後、遊歩せらるべきと、樂とあるものあり、○故に遊歩を樂とせんと、おもむく、授業の時間ハ、怠りなく勉強せべし、○遊歩場に出でて、男兒の戯る、枝ハ種々あり、決して危き

遊をバ、あはべりらば、○輪を廻
 ハ、紙鳶を飛ばし、球を投ぐる
 等を宜くとす。○朋友相集りて
 遊ぶときハ、自檀よして他人の
 樂を妨くべからば、○女子の遊
 ハ、男兒と異りて、走り旋るゑど
 の戯をバ、あはべりらば、○朋友
 を伴ひて、遊ぶ時ハ、心を和ら
 げて何事も親しくをべし。

第二我等ハ河の中にて遊ハ
 とは岸の邊ハ水淺きゆゑ、水



ま入りて遊ぶことを得べし。○河の
 正中ハ深きゆゑ、遊ぶべからば、若
 く深き所ニ、沈むるときハ、復出づるこ
 と能ハざるべし。○汝の衣裳ハ、濕
 だば、陸より上りて、これを乾かすべし。
 ○汝ハ、この小舟に乗らんとするら
 ○小舟ハ、覆へり易し故、漫々乗るべ
 からば、過つ時ハ、水は陥りて、其
 命を失ふこと、あるべし。



○此兒ハ、新しき紙鳶を持
 てり。○彼ガ糸を持ちて、走るを見よ。○彼ハ紙鳶を高くと
 飛ばせんと思ふあり。○汝も紙鳶の颯るを欲するら。○紙鳶

小學讀本 卷之十一

の賜りころときハ能く心を用ひよ○糸の織は纏ふこと



あるべし○彼ハ新しき帽を持てり○其舊き帽ハ破きたるゆゑよ新しく買得たるなり○新しき帽をハ心を用ひて或ハ毀り或ハ濡れ

へからば○凡て新しき時より大切は持てハ後までも破き難し故は何物までも慮未はたべからば着心を用おむして毀つことあらばその罪を免るべからば



○此猫を見よ恣に臥床の上よ坐せりこれよき猫ならん

返○汝ハ猫を追ひ退くることを得べしや○否手を出さば必猫は噬ま

るべし○猫ハ他所に追遺るべからん又

此所よ留め置べきや○猫ハ此室の中よ留め置と雖臥床の上よ上るこ

とをハ許さべからん○汝ハ此猫の鼠を捕を見たりや○見たり夜間よ

鼠を捕ふること屢あり○汝ハ小舟よ乗せり人を見たり

や彼ハ何加よして其舟を行るや○彼ハ櫂を以て小舟を漕げし○群兒相集り毬を投げて遊び居たり○彼等の棒を

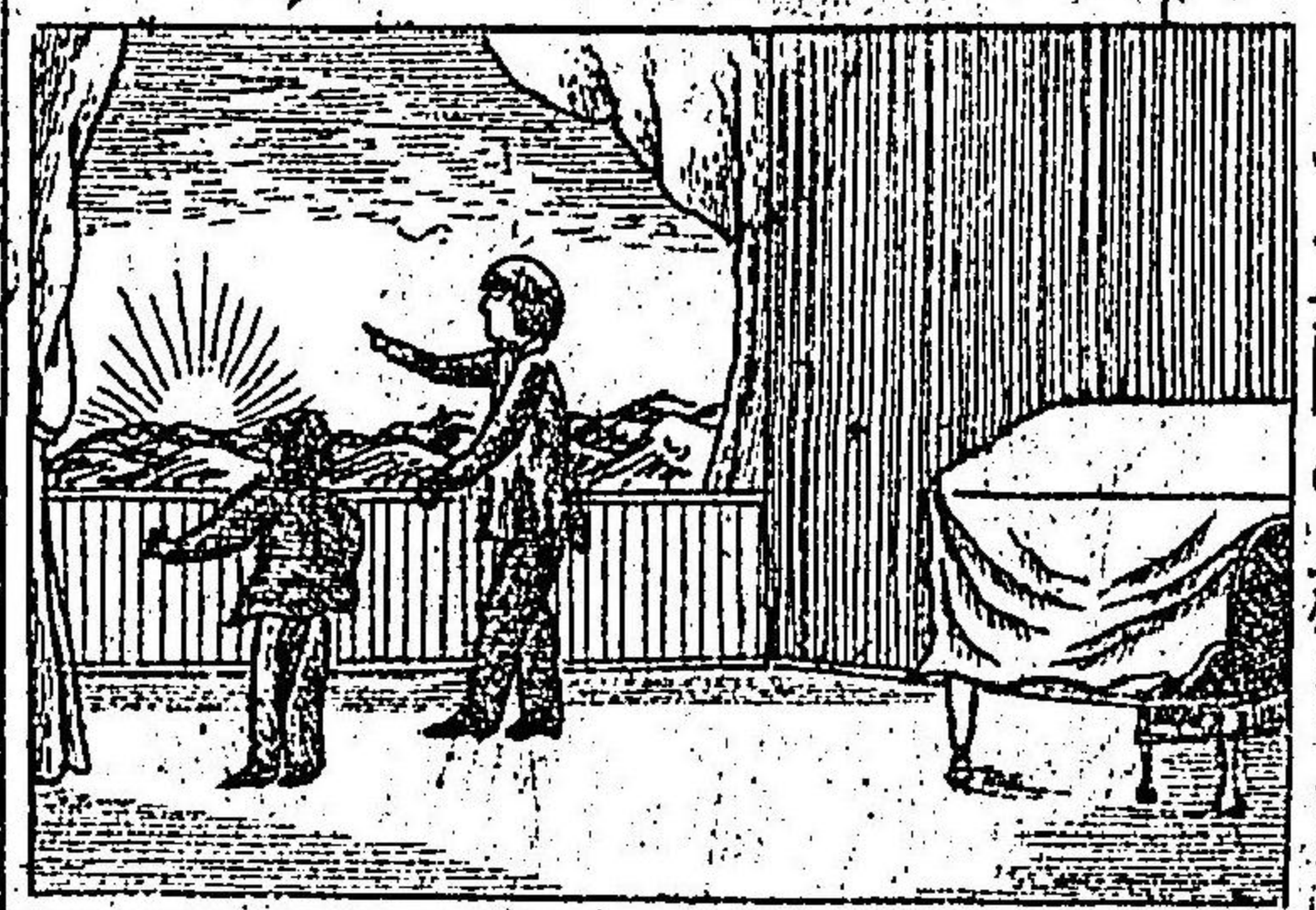


漕げし○群兒相集り毬を投げて遊び居たり○彼等の棒を

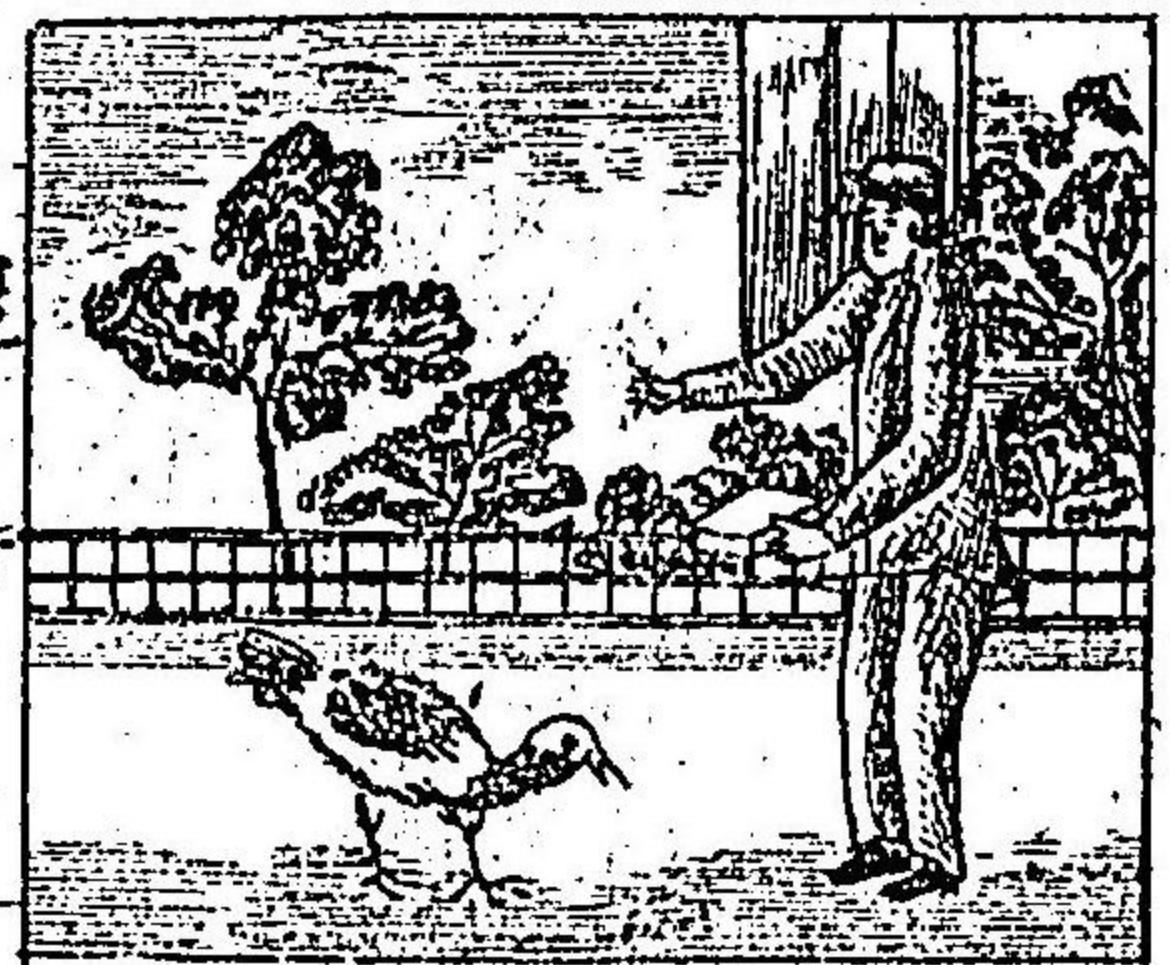
持てるハ、投げたる球を受留るを以て、
 樂とせらるるあり、若其球を受留ること能
 ハざる者をバ、負とするあり。○此球ハ
 柔よくて堅きものみ、何らざるゆゑ人
 より中りても傷くこ
 とあり。○此ハ善き
 遊ふれとも、熱き日
 には早くこれを止め、酷き熱さに
 觸るゝときハ、身を害ふを以てなり。○
 大陽の昇りたるるときハ、我業の起き出
 つべき時の來るなりと思ふべし。○



大陽の昇りたる後までも猶寝所を眺むることあり。○我
 等ハ大陽をバ見ることを得ざとも其出るを見ることあり
 ○汝ハ大陽の赤きを見らること何王や大陽の赤きとき
 ハ大抵早をるものあり、これハ林檎
 の樹あり。○汝ハ此樹の蕾を見ら
 りや。○此樹ハ紅き蕾満てり。○此
 蕾をハ取へらば。○暫過ぐれば其蕾皆
 開き美しき花とあるのみあり。後ハ
 実を結びて其味甘き果となすあり。○
 彼兎牡雞を養へり。○雞ハ穀物を食
 せること速あり。○これ豕むことあり



して、食をろぐ故あり、然まとも其
穀物をハ腹に嚙み下たさむして
唯喉の下ある後、念置き夜間
再吐き出さうて始てこれを腸中
に嚙み下どに



鳥の聲を聞くことを好むり又好まざるう○昔ハ鳥の聲



ものあり
第三彼女ハ鳥を捕へて籠に入し置け

り○此鳥ハ馴きとりや又時とてハ
噪き暴るくことも有也○此鳥今ハ馴

れことども初とよく暴きたり○汝ハ

を聞くことを好むのゆゑ、又
其形を見ることを好めり○此鳥
ハ籠より出づること願へるう、
○若籠より出づるとも再歸り来
るべきう又其まくに飛去るう○



凡て鳥ハ自由
に山林に遊ぶ



ことを好む故に籠より出ることを願

ひ一度出れハ再歸り来ることある○

我ハ悪き小兒を好まざるゆゑ、これを

返さけんとする○悪き小兒もて、吾をこれを打ち傷く

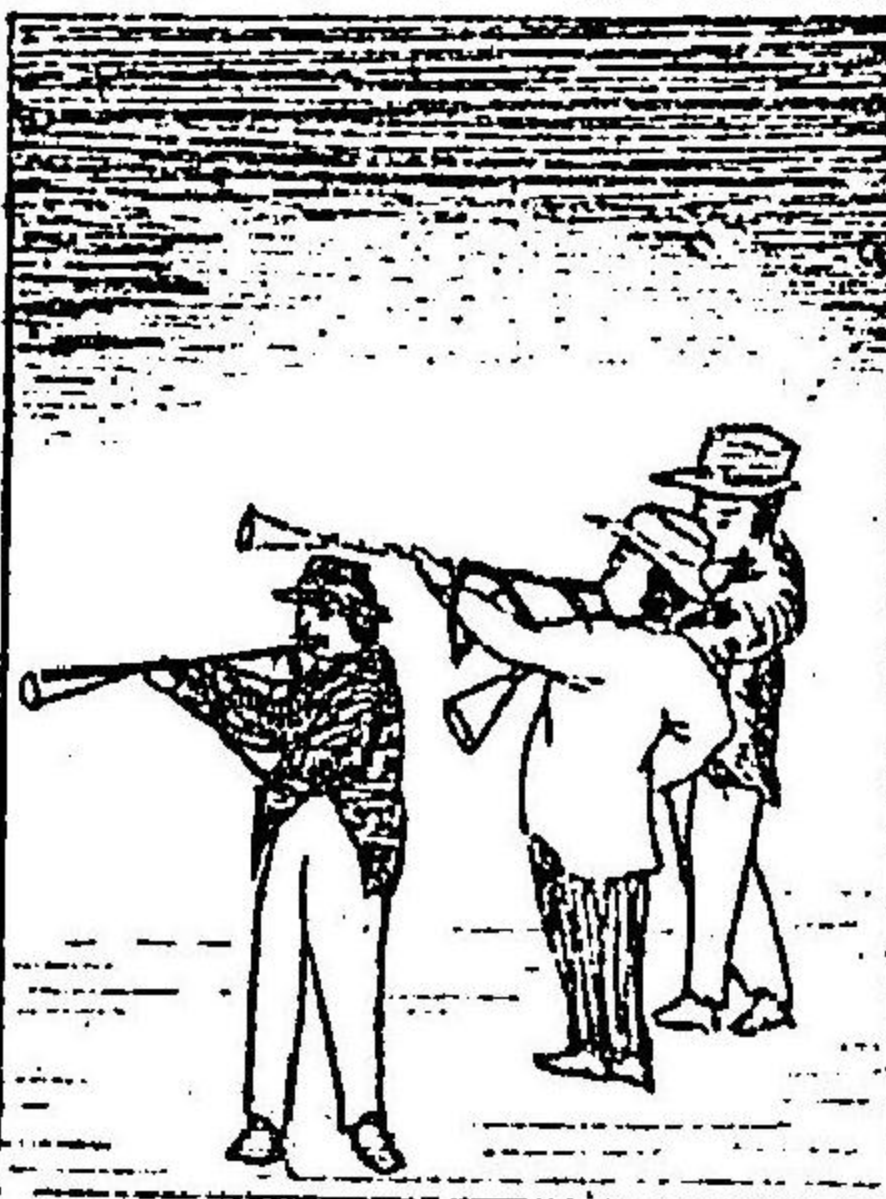
ることあり、然れども、共み、遊ぶこと
 きハ、好まざるあり。○彼子ハ、彼小女
 の為、親切ありや、○然り、彼子の、親
 切あることハ、小女の、躓き倒れざる、
 為、手を執り導くを見ても、知るべ
 し。○彼二人ハ、道み、迷ふべきや、○否
 彼子ハ、能く道を、知れるゆゑ、二人
 とも、道に迷ふことあり。○彼等ハ、林
 の中を、過ることを、恐るるや、○否、恐るることあり。○小女
 の母ハ、彼子の、恐るることなきを、知りて、これを、任せたる、
 ゆゑ、親切に、導きて、家み、在ると、同じく、安全あり。○むる、



あり。○若又、家み、歸らんと、せるときハ、自
 在に、歸り得らるべし。○汝ハ、杖を、携へ、
 る老人を見たるや、○彼老人ハ、路傍の、石
 の上、息ひ、其手を、杖の上、置けり。○彼
 の顔と、其白髪あるよ、由りて、年老たるを
 知り、又、年老たるよ、由りて、體の、屈みたる
 を、知れり。○何よ、由りて、彼ハ、杖を、携ふるや、○老人ハ、杖の
 為、歩行を、杖かゝて、ハ、歩行し、難し。○彼ハ、年老と、れども、
 起つこと、歩行を、することハ、得べし。然れども、急み、走るこ
 と、能ハ、比、時々、途上、休みて、息を、續き、杖を、頼りて、徐々、歩
 行を、するなり。○爰、五人、あり。○汝ハ、此人の、年老たるを、知



れりや。○此人ハ白き鬚あれば、老人あるべし。○此人等ハ手ハ杖を持し、老人と、同じく、年老たり。○然れども、其身ハ、猶壯健あるゆゑ、杖ヲ頼らざりて、自在ニ歩行せることを得るあり。○彼



等ノ持ちたる笛ノ名を、何といふぞ。○此ハ喇叭あり。○彼等ハ、樂隊ノ兵卒ゆゑ、此笛を吹くことを鍛錬せり。○此笛ハ、兵隊ノ行列を先



の開きたるものゆゑ、聲を發すること、最大あり。○汝ハ、此人の服紗の中、あるものを書冊ありと思ふ。○否、これハ、巻物あり。○然らば、書冊の次第を數ふるとき、何故、巻ノ一巻ニと云ふや。○この唱ハ、漸々轉れるあり、古ハ只巻物にして、書冊あり



ざるゆへ、巻一巻ニと呼びたり。其後今の書冊出来りても、猶昔の唱、浴うへるあり。○良き老人ハ、杖が好む隨ひて、問ふ所を教へ、又能く小兒を愛する。○然れ、彼ハ小兒の善きものを愛すれども、惡き小



兒をバ、決して愛することあり。○善
 き、小兒あれば、好みて、何事をも、教ふ
 るあり。○汝ハ、此女子を見ざる。○
 何故よ、其手を上げて、をるや。○彼女
 子ハ、籠よ鳥を入れ置きたれども、心を用ゐること、深からざ
 る故よ、鳥を、養ひ得ば、彼籠を持と、即其鳥逃げ去りて、直ふ
 林の中よ飛入りたるあり。○此とき驚きて、手を擧ぐと
 も、再捕ふるに、能ハざれば、何の用よも、立つべからざらば。○
 彼の鳥を、逃がしたるを、吾ハ却て、甚喜べり、鳥ハ自由ある事
 を、好むもの、あればあり。○汝ハ、鳥の性を知れりや。○鳥ハ、
 木よ在ることを、好みて、巢を造り、兒を、養育す。○鶯鶯ハ、



鳥よて、棘の間よ、巢を營み、鶯鶯ハ、水鳥よ
 て、水の邊よ、巢を造るあり。○かゝる鳥ハ頭
 よ、毛冠あり。○すべて、諸鳥の、林間よ水
 上よ遊ぶハ、天然の
 性あれば、これを捕へて、苦むるハ、善
 きことよあり。○



第四 此女子ハ、愛すべき、人形を持てり、これ等ハ、遊ぶよ、宜
 しき具あり、必大切よ弄ぶべし。○人形を舞をひときハ、静
 ん、動ふりて、毀るべくらば。○母ハ、小兒よ、向ひて、何れの人形を
 求めんとするやと、問ふ、小兒ハ、自好む所を、指し示せる
 あり。○此小兒ハ、人形のみを、弄びて、倦めるときよハ、何事

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



をあらや。○磁を弄ふことを好むある
べし。○此店に列ねる品ハ皆小兒
の好むものかれども此小兒ハ静か
る娘ゆゑ人形を愛して能く心を
用ゐこれに損ひ毀ること
あし。○鼻ハ終日密樹
の枝みどり夜も入れバ

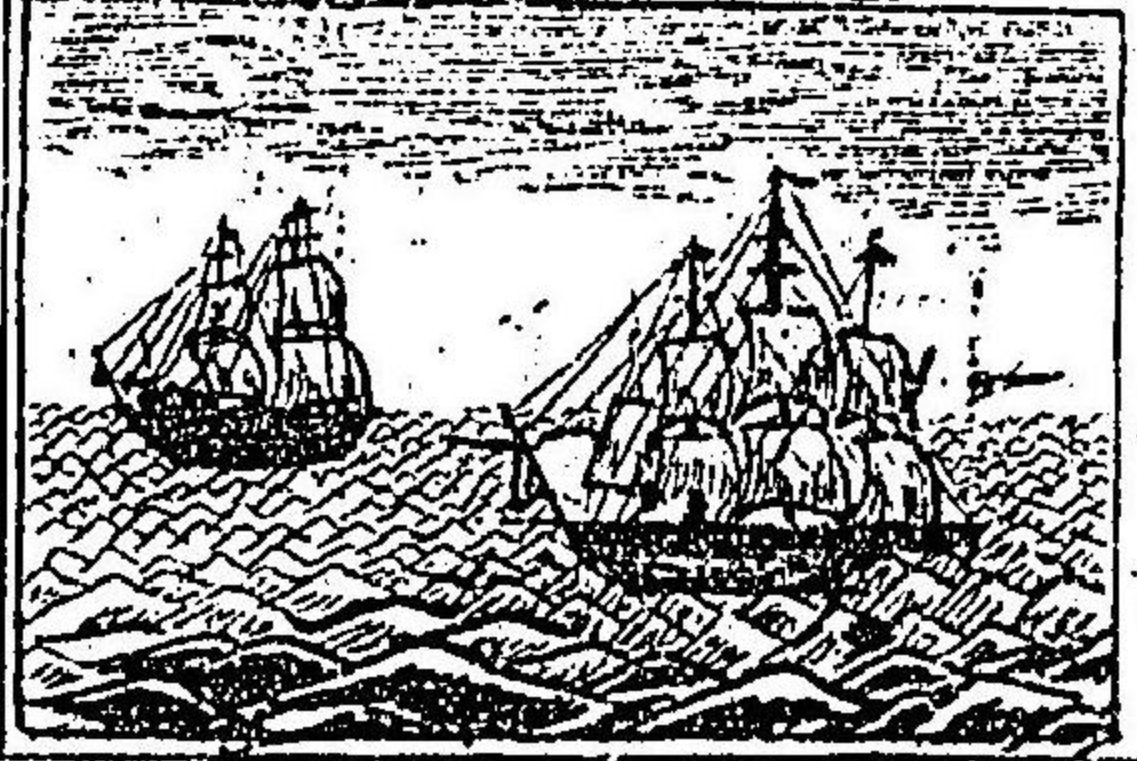


始めて飛翾るなり。○此鳥ハ眼力甚強きがゆゑに晝間
ハ却て物を見ごと能はず暗夜も明々あること人の能
く日中よものを見るがごとし。○馬も乗れる人あり。○
汝ハ馬も乗ることを好む。○我ハ馬も乗ることを好めり



然れども彼の如く疾く走ることを
好まば徐よ歩ますることを好めり。
○此馬ハ何故も疾く走るや。○馬ハ
彼も鞭をふるゆゑに其蹄堪へ
ぞいで疾く走るあり。○爰も小船と

大船あり小船もハ二木の檣あり大船もハ
三木の檣あり汝ハ檣の用を知れりや。○檣
ハ凡て帆を揚ぐる為に設けらるあり。○汝
ハ海を渡るに小船も乗ることを好む。○
風吹きて浪の立つ時ハ我ハ船も乗りて海
を渡ることを好まば其履らんことを畏る



るゆゑあり○これハ蒸氣船ありや○否蒸氣船よりいへば帆前船あり○爰ハ暴風の日海上に浮びゆる船あり櫓も折れ帆も破れて甚危き状あり○此船ハ帆前船なるべし



より蒸氣船あれハ斯る難は罹ること少あゆらん○これハ軍艦ありや○否商船あり船の腹は浅きを見て知るべし○此小兒ハ幼年あるゆゑよ水の深き處へ入ると能をば○此小兒ハ何をあさんとするや○これハ蓮の小き葉と大ある葉とを採らんとするあり○より岸より遠く離れ行くときハ水も漸深くあるゆへに歸ること能はざるべし○一人の男ハ帽を被りて左の手ハ杖を持てり○此人ハ此



家の主人よて今他所へ出て行くんとする状あり○帽を手をもちゆる人ハ上著を著すして肘を見ハせりこれハこの家の僕にして事をあそみ便あるがゆゑあり○僕今主人の出で行きて後にも終日空しく暮すことを欲せばして其為すべ

き事を問ふところあり○人ゆりて草を積み上げたり此草の乾きゆるを枯草と云ふ○枯草ハ車も載せてこれを馬も引かせ直し小屋も運び入る○草





ハ枯て乾くを待ち速よ小屋に運び入る
 べいも雨よ遇ふ時ハ再濡る
 れバあり○此枯草ハ牛馬の食と成りべ
 ○馬ハ枯草と麥とを食すれども其最
 好むものハ麥あり○人ハ耳目口鼻
 ○鼻ハ香を嗅き耳ハ聲を聞き口ハ食を
 味ひ又思ふことを言ひ目ハ物を見るも



のあり○鼻と口とハ只一つありて目と耳とハ二つあり
 ○耳と目とハ二つありて口ハ一つ
 あれバ見聞く如く言語を多くす
 べのらば○又人ハ二つの手と二

つの足とあれども口ハ只一つゆゑ語をハ少くして業を
 ハ多くすべし

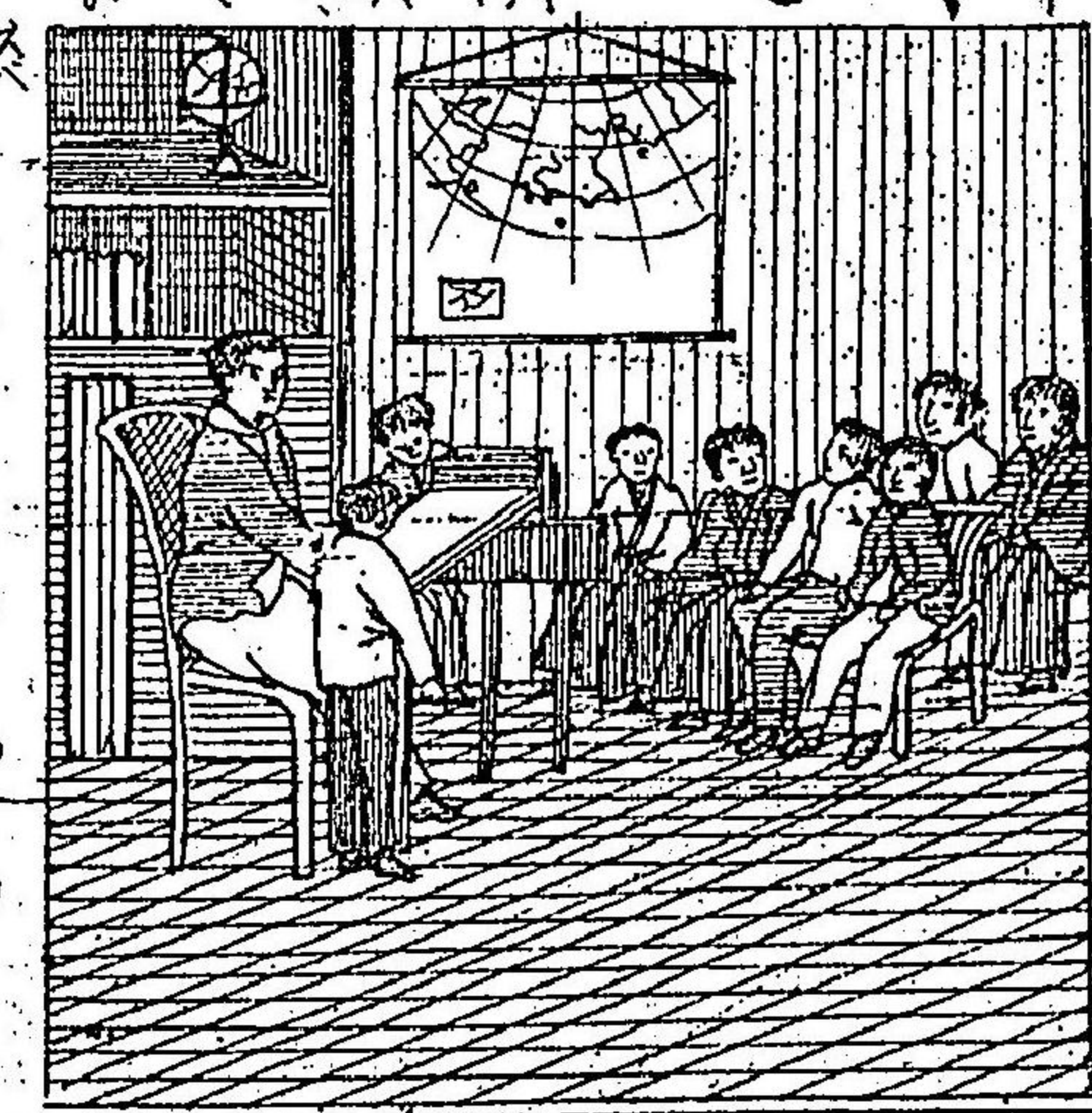
第五鶴ハ大ある鳥よて雛の間ハ其羽毛茶色あれども
 生長して後雪の如く白くあるあり○此鳥ハ長き頸よて長き脛



あり○此鳥の卵ハ大よして白
 きものあり○此類の鳥を涉水
 鳥といへり浅水を涉りて魚蟲
 を食とあせども水上に浮ぶこ
 となく夜ハ樹上よ眠るゆゑな
 ○學校よ教師入り來

れり數多の男兒と小女子とあり○此小兒等ハ皆書を讀

み、字を書へり、○校中よハ石
盤と、机と、書籍とあり、○汝ハ
學校よ、行くことを好む、○
汝ハ、書を讀み、又、語を綴るこ
とを能くすや、○吾ハ書を讀
むことを好めとも、未能く讀
むことを得ぞ、○今日ハ、寒き
日あり、○雪ハ、一樣ハ、地上よ
積もれり、○小兒ハ、氷の上を滑べること好む、○此遊ハ
甚、危きものゆゑ、能く心を用ゐずバ、あるべうらば、○も
顛び、倒るることあり、○身を傷ふべし、○賢き小兒ハ、



る危き、遊を好むことあり、只遊
歩場よ、於て、遊ぶのみ、○此兒ハ
手を伸べて、卵を取らんとす、○
巢の中よハ、數多の、卵あり、○こ
れハ、鶏の卵あり、○鶏ハ、巢の傍
よ、在りて、飛び去らば、これハ、卵を
取らるることあり、○

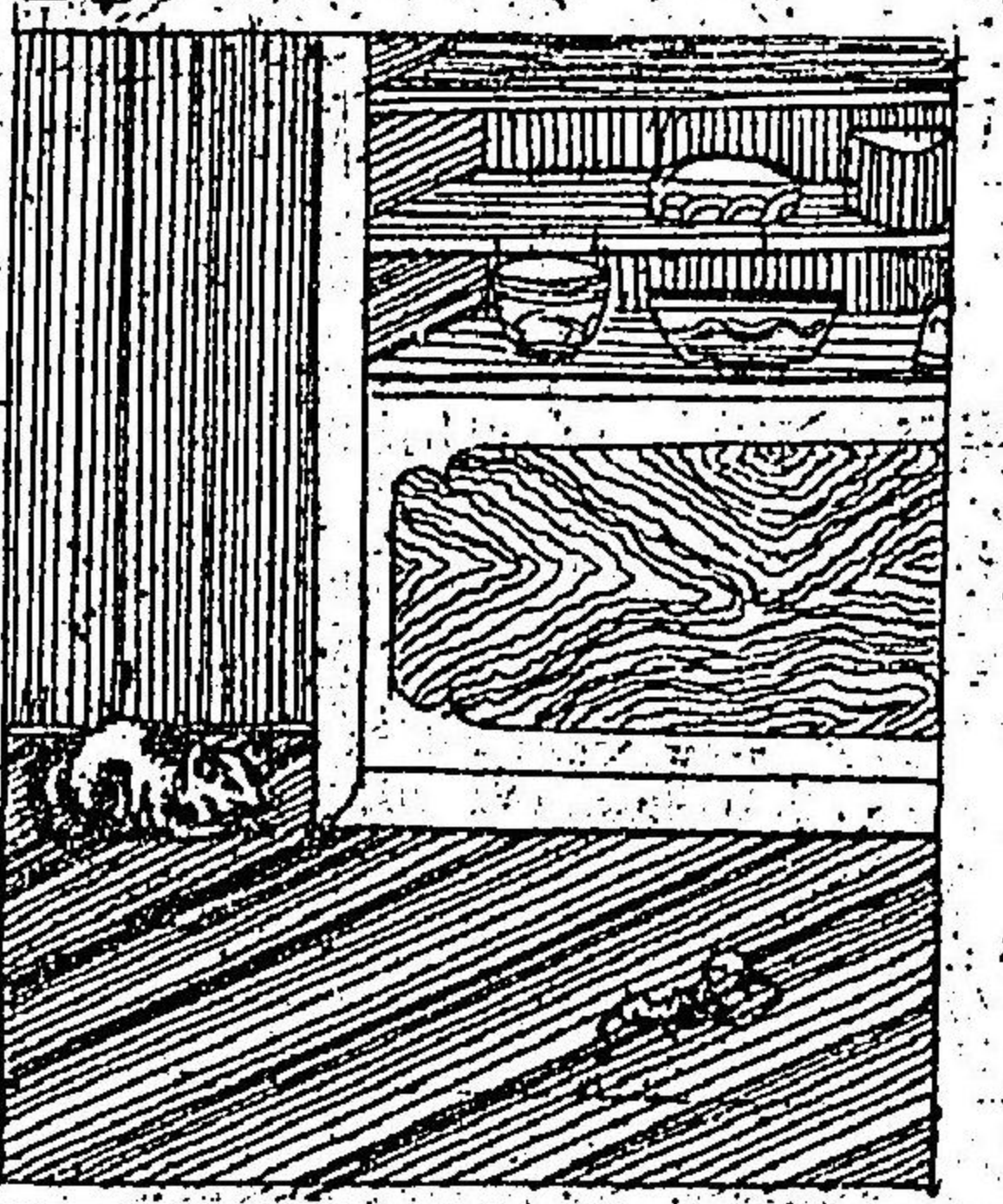
鶏の卵ハ、小ちもの、と、犬あるものと、
ある、其種類、の、異あるゆゑあり、○聖麥と
桔梗との花あり、○小兒ハ、桔梗の花を採
り、娘ハ、聖麥の花を手と持てり、○聖麥の





花ハ多く、紅色あり、○桔梗の花ハ紺色あり、罌粟ハ多種あれども、概夏ハ花を開くあり、○數多の鼠あり、鼠ハ日中も出づることあり、○夜半も空りて各出て遊べり、○此出て遊

ふときハ梁を行き、柵み登り、厨み入りて、食類を竊み、食に、○然れども、猫の聲を聞くときハ、驚馬て、一時静まり、忽穴の中へ逃げ入るあり、○故に猫の居る處ハ、出てあそぶことあり、



○爰に馬車ありて、數多の小兒と女子を載せり、○汝ハ此小兒と女子とを、知れりや、○これを知れり、○これハ皆我學校よ、来る人あり、○彼の犬ハ馬と同トく、走れり、○彼等ハ汝を見たりや、○彼の吾を見るとき、必其帽を脱ぐ、故に杖も、亦其時ハ、帽を脱ぐざることあり、○この箱の中、響きあり、○汝ハ此響を何ぞ



りと思ふや、○此箱の中、何ぞの鼠あり、○此響甚小なるゆへ、

吾ハ小き鼠ありと思ヘリ○凡て響ハ其物ハ應トて度ハ過ぎざるものおれハ猫よもゆゑに大ある鼠よもゆゑに



と思ヘリ○爰ハ四人の小兒あり二人ハ坐して二人ハ立てり○一人ハ老人ありて此小兒等ハ神の話を説き聞クさんとせ○老人云ふ凡て人ヲ神を敬して我身の幸を願むとありバ善き道を行ふべし○善き心を持ちて善き道を行むんことを欲

せば小兒の時より學問を勤むべし○學問して壯年に至り毫も過さざるときハ自神の助を得べし○爰ハ杖を携へ



たる老人あり足も不自由にて目も朦朧とされり然れども此老人も初めハ小兒よて今の汝等の如く疾く走りまゝ旋び戯れしあり○今ハ足も顛るるゆゑ小兒の肩に倚りて立てり○見

よ此老人ハこれを一年ハ譬ふれば冬の時侯の至れるあり○汝等も冬の時侯ハ至らざる前ハ學問を勤めて世間の利益を考へ出でざるハ春の萬物を生長するが如く世

ハあるべからば○爰ハ規の大木あり○汝は此木の年を経たる數を知れるか○此木



の年を経るる敷を知らんことを欲せハ、横も切りて木理の輪を敷へ見るべ。○木理の輪ハ年毎よ一つの外ハ忠せざるものなれば、輪の敷よて其経るる年の敷を知らざるあり。○木理の輪ハ大概木の心より増きものなれども、希ハ外面より増すものあり。○汝等毎朝早く起きて神を拜し、先今朝まで無難ハ、過ぎたるも、神の賜ありかく夜明くる毎ハ日光を給ふよりて父母の恙あき顔を見ることを得るも皆其恩ありと謝をへり。○さて其後よ吾を導きて幸を興へ必過無からまめんことを行るべし。



第六 此人等ハ小舟ハ兼リ網を以て魚を捕り海濱へ歸れるあり。○網を海上より引きて魚を捕ふるも鱗あるも鱗あきも大あるも小あるも同トく其中よ入らざるものあり。○汝ハ此處に居る三人の男を見たりや。○又彼等の捕へたる敷多の魚を見ればや。○海中の魚ハ其種類多くて大あるものと小あるものと良うぬものとわり。○一人の男ハ小舟にて良うさる魚をハ取りて海中へ投げ入れり。○一人ハ大ある魚を籠へ入る所あり。○入れたる魚の此籠は満ちたる



小笠原講談 八巻之十一



ときハ我ガ家ヲ持ち歸るあり○此地を何如ある處と思ふぞ○花園あり○此處は數多の美しき花あり○左の手は鋏を持ち右の手は帽を持ちたる小兒あり小兒の後ハ杖を持ちたる娘あり○汝ハ此園を此小兒と娘との為ニ設けたる所ありと思ふぞ○又この小兒等を喜ばせて遊ぶと思ふぞ○一人の娘ハ瓜をばれたる籠を持ちてり○汝ハ花園より遊ぶとき漫々花を折り又果を取るべし○此の果は葡萄と梨子あり○籠の外は掛りたる



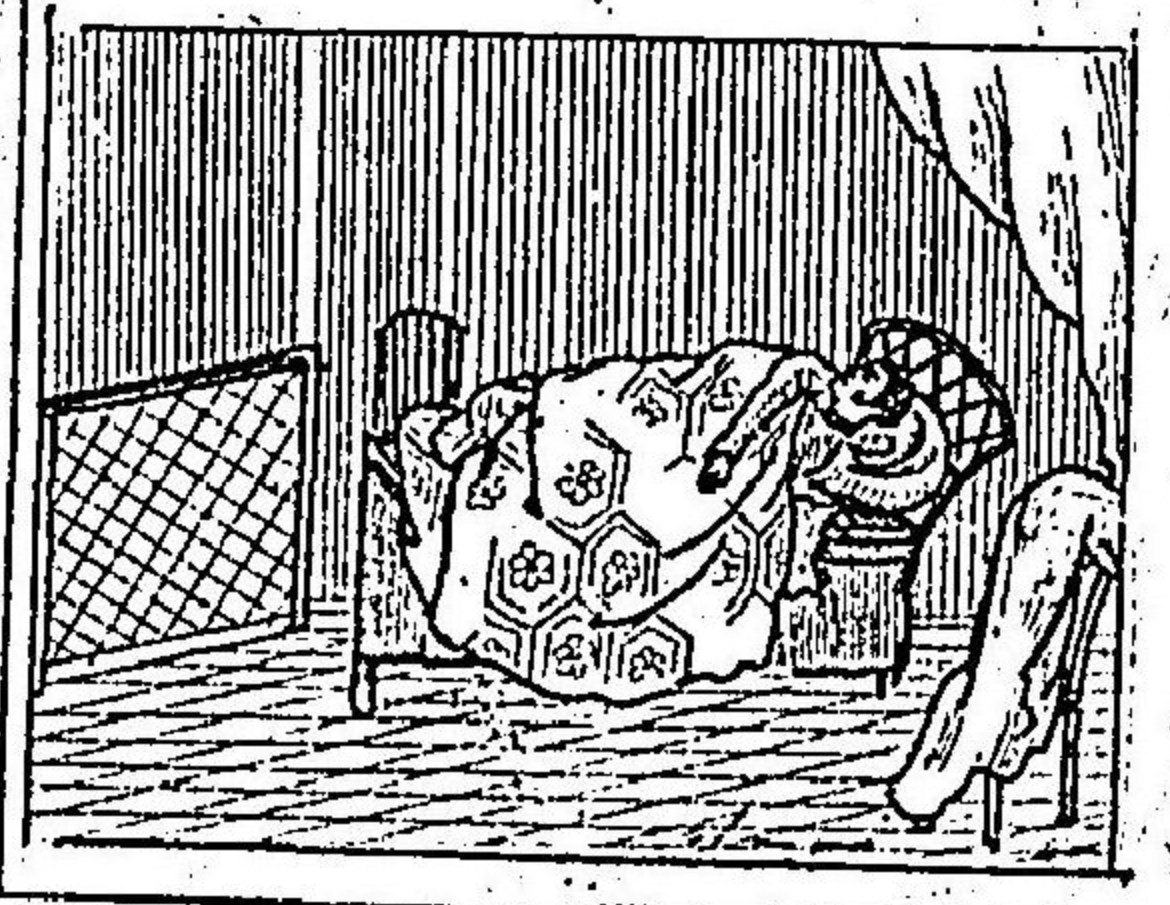
ハ葡萄の蔓あり○其影ハ籠の左に在り然れば太陽ハ何れの方よりといふことを知れりや○太陽ハ籠の右よりあるべし○此畫ハ日の出の景色あり○今日ハ晴れたる天氣ゆへに啼く鳥ハ木より木へ飛び遷る○草ハ青々として葉は露を帯り○數多の農夫ハ野に出でて或ハ畠を耕し或ハ草を刈り○農夫ハ晴れたる日ハ必野に出でて働くものと知るべし○晴天ハ働くに便しバ霖雨ハ避ふとき耕す



ことを得て、殺菜を得ることあり。○
 今日中よなりたり。○大陽の照らぬ處
 ハ、甚熱し然れど、樹の蔭ハ較涼しきゆ
 へ、臥しる牛とせざる牛あり。○又一匹
 の牛ハ熱さを消せんが為、河へ行きて
 水を飲まん。○河の上、橋あり。○人
 ハ日中あり、ゆへ、皆晝飯を食する
 為、家へ歸れり。○日暮し、ありたり。○人
 ハ野より歸り来り、牛は庭にあり。○一人
 の女ハ庭へ出て、牛の乳を搾り、桶に満し、めてこれを
 牛酪に製せんとす。○此時男子ハ晝間、草を積み、



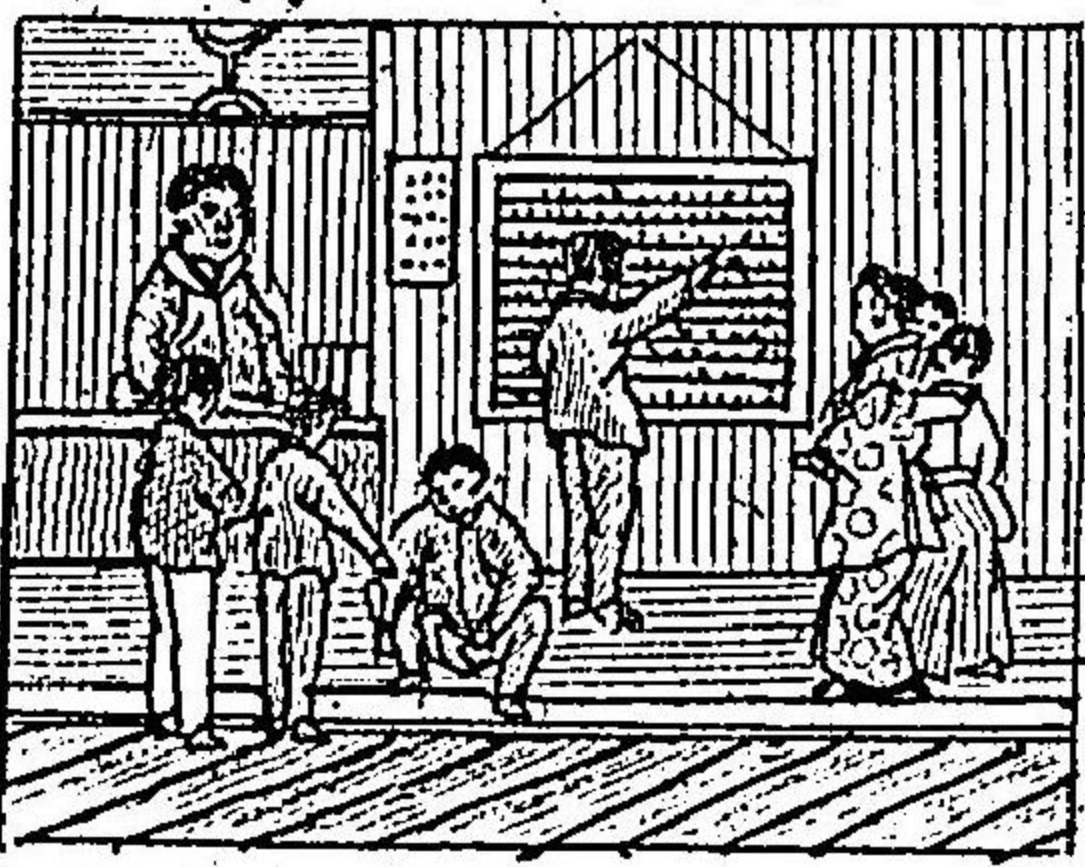
又干し置ける殺を収めんが為、極めて
 牝し今日も、務を果さざるときハ明日
 の業み妨げらるが故あり。○神ハ常、我
 を守るゆへ、吾ハ獨りて、暗夜も歩行す
 るをも恐る。ことあり。○又眠りたる時
 にも、神の守りあるゆ
 へ、暗き所も恐る。こ
 とあり。○神ハ暗き
 所も明み見るとのゆ
 へ、人の知らざる所と思ひて、假よる悪
 事、ことなきをば、怨罰を蒙るあり。



○人の知らざることをも、神を能く知るゆゑよ善きものよハ幸を興へ、惡しきものよハ禍を興ふるあり

第七 汝ハ物を數へ得るなり ○父も一汝よ、

十一の林檎を興へて母もまゝの五の林檎を興へるとときハ幾箇の林檎を得たり



と思ふや ○十六の林檎あり ○然り汝等ハ物を數ふることを學ぶべし ○大ある數と小き數とを知るべし ○汝ハ石

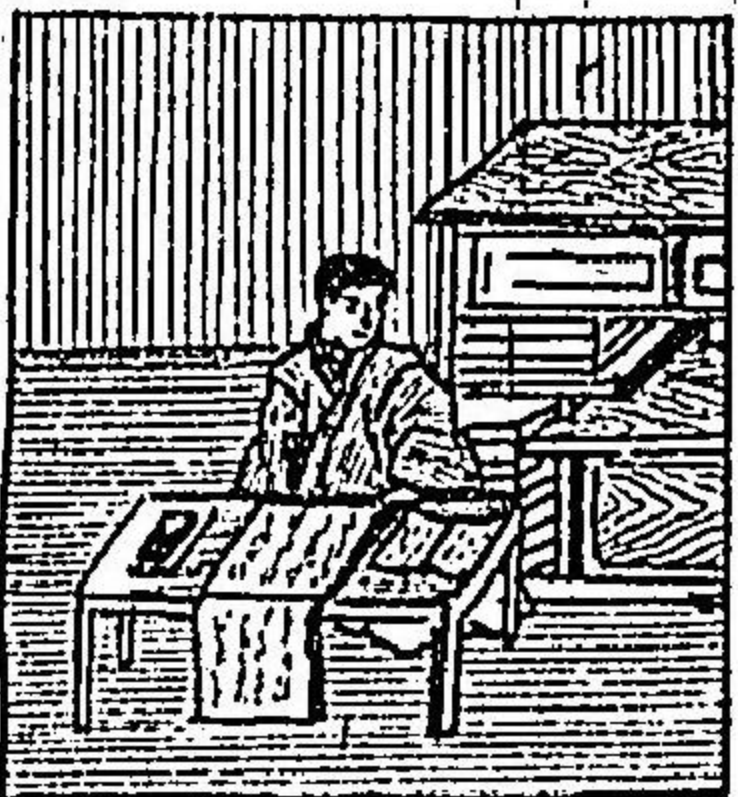
盤又ハ紙ハ數字を書得るなり ○もし數字を書き得ずハ務めてこれを書くことを學ぶべし ○物の數を知らざるは愚人あり

○盆の上よ十一の梨ありこの中母ハ三つ



持ち去れり然らば残りたる梨子ハ幾箇とあれりや ○残りたるハ八あり ○汝等ハ文字を書き得るなり ○文字を書き得ざるるときハ書狀を

人よ贈ること能はず ○このゆゑも汝等ハ文字を書くことを學ぶべし



○汝等ハ文字を読み得るなり ○文字を読むことを知らざれば人より贈りたる書狀をも讀むこと能はば ○又書籍を讀み得る



ときハ事を知ること能まば○事を知らざる人ハ綴才ゆ
 りと雖用ハ適せざるあり○ゆまみ文字を讀むことを
 知らざる者を同く愚人といふあり○されバ汝等ハ務
 めて文字を讀むことを學ぶべし○馬ハ實用ハ適すべき畜
 類あり陸地ハ於て荷物を運ぶハ馬を
 くてハ不便あり○馬ハ畜類の大なる
 ものよて顔長く鬣ゆり○背の上ハ荷
 を負ひて遠きは輸るとゆり人を載せ
 て速く走るもゆり又車を引くもゆり
 あり○牛も馬と同く實用ハ便ある
 畜類よして能く車を引き又ハ荷を負



ひて遠きは輸るものあり○されども
 牛ハ人を乗せて走ること能まば○牛の
 肉ハ食物とありて能く滋養をあたふ又乳
 牛よりハ乳汁を搾
 り取ることを得るも
 あり○汝の着る衣
 服ハ何といふ織物
 ありや○上衣ハ糸織よして羽織ハ
 黒羅紗あり○汝ハ絹と木綿と羅紗
 の中よ何れが尤暖あるものと思ふ
 や○羅紗ハ毛織あれバ第一よ暖な





久、其次を、木綿と云、絹を又其次を
 云、○爰も、白き單衣と、紺色の、單衣
 あり、○汝ハ、何れを、暖ありと思ふ
 や、○白き色ハ、太陽の、熱を引くこと
 少きゆゑ、夏ハ涼しと雖、冬ハ寒
 し、○紺色ハ、太陽の、熱通ひ易きゆ
 ゑ、冬ハ、暖ありと雖、夏ハ、暑し、○人々夏ハ多く、白衣を着
 る、冬ハ、多く、紺色の、衣裳と着るハ、この、理よりてあり、○爰
 も、二枚の、圖あり、皆人の、働く、状を、畫けり、○初の、圖ハ、甲
 下よりて、袂と、植るところあり、○この、人ハ、肘も、露は
 せり、これ、働くも、便あるるゆゑあり、○次の、圖ハ、稻を刈り



ち、農夫の、苦勞を、想ひ、粒々皆辛、苦
 り出で、ふるを、知りて、其業を、患る
 ち、○これハ、蠶を、養ひ、絲を、織る
 あり、○數多の、女、皆朝早く、起き、夜中



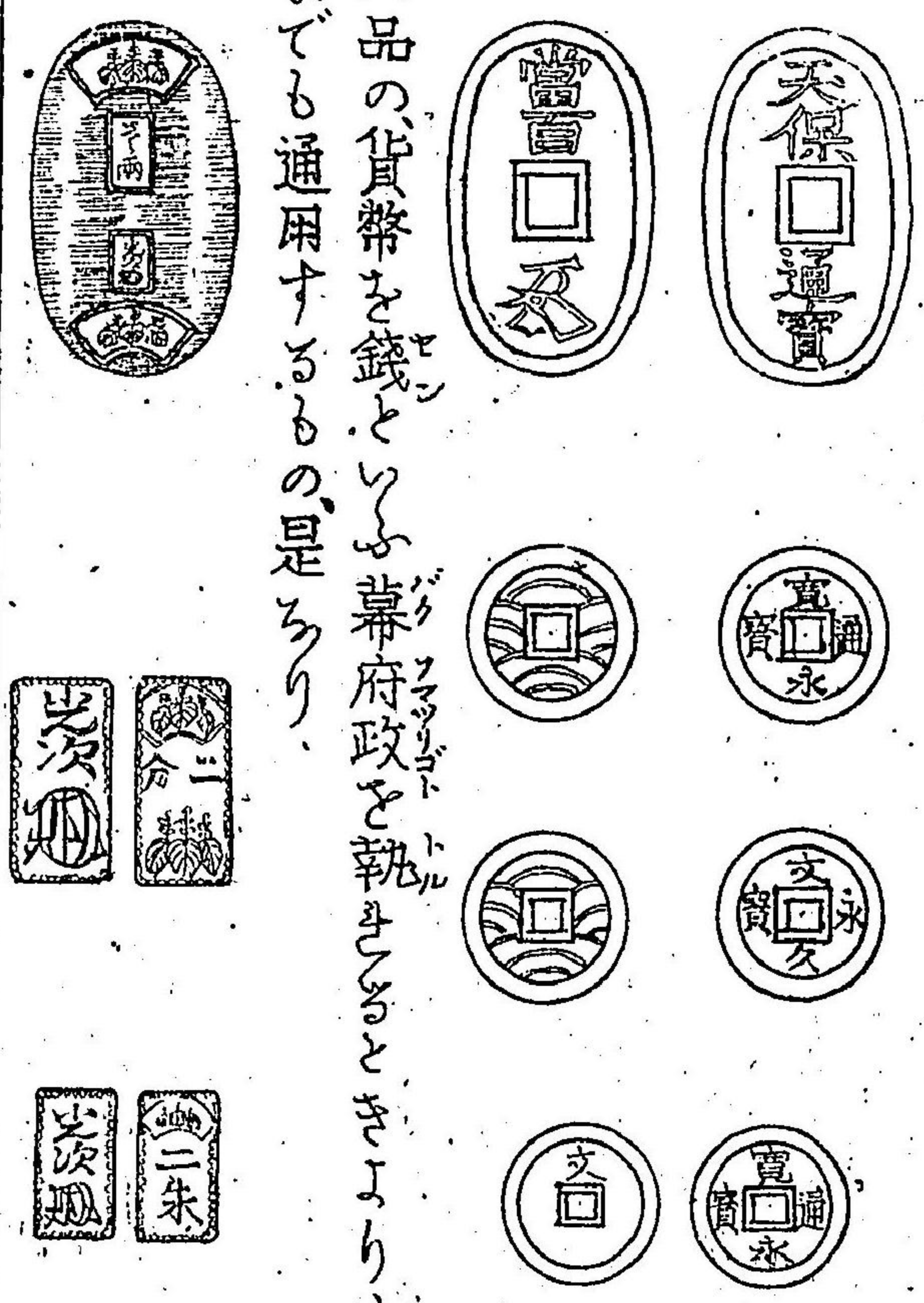
て、杖家よ、持ち、歸る、所あり、○又、稻を
 拵ぎて、米を取、る所を見、るべし、○此
 人々の、衣ハ、濡ひて、乾くとき、
 ○農夫ハ、此の、如く、働く、がれば、穀
 物を、得ること
 あり、○汝等、穀
 物を、食する、毎



ときよハ必蠶を養ひ、絲を取る人々の苦勞を忘るべし
 といふ

おても、眠らばして髪も結せず
 日々、息ふ間なく御けり、○又二
 人の、男あり、桑と採る所あり、○
 此男ハ野よ出でて、耕す人と、同
 しく、肘も腫も露も、力を盡し
 て、働けり、○此の如く、數多の男
 女の、苦勞して、製衣する人、非ざれ
 ば、糸も生ぜず、絹も得ること、能
 はず、○汝等、暖ある衣を着る、

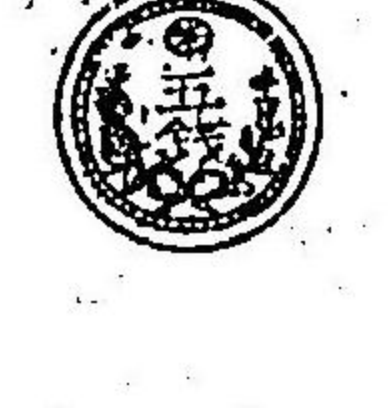
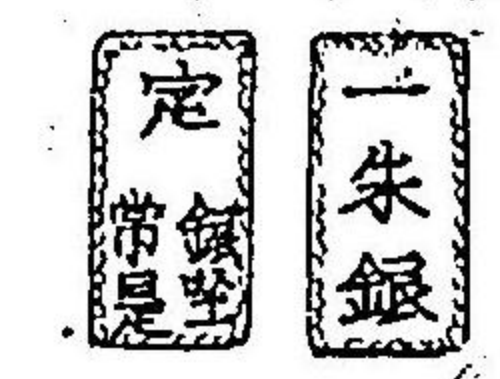
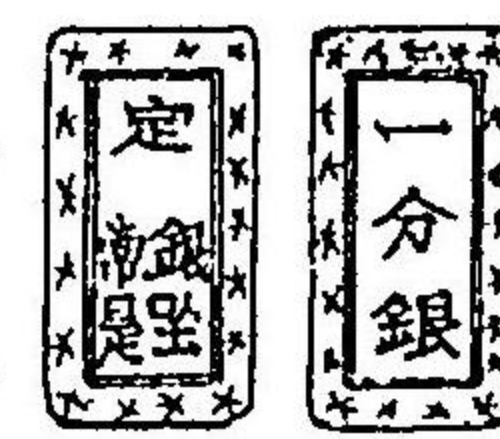
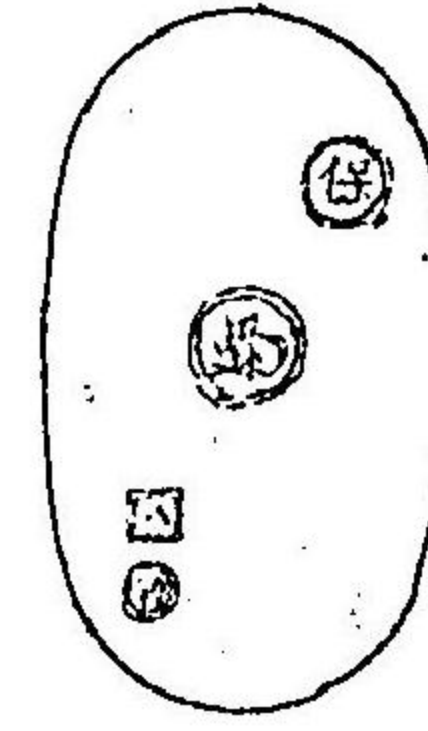
爰に種々の貨幣あり



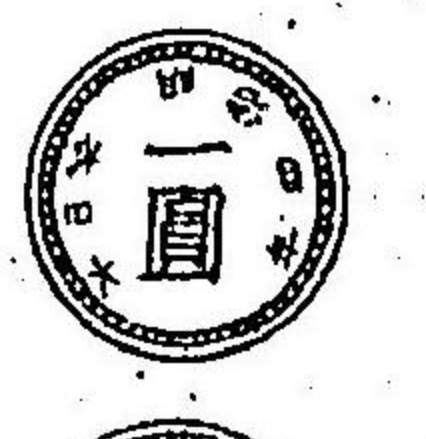
右四品の貨幣を錢といふ幕府政を執るときより、今
 日までも通用するものは、是なり

貨幣の類
 一
 二
 三

此五品の貨幣と金とを幕府政を執るときは時通用せしむるあり



右五品の貨幣と銀貨幣と云ふ



右五品の貨幣と金貨幣と云ふ



右三品を銅貨幣と云ふ、

此三種の貨幣ハ朝廷の發行よて當今の通用あり、

○小銅錢一箇と一厘といひ十厘と一錢といひ百錢と一圓といふ故に十二錢半ハ金貳朱、當より二十五錢ハ一分は當より五十錢ハ二分は當よりあり、

小學讀本第一終

小學讀本卷之二

田中義廉

編輯

那珂通高

訂正

第一 此女兒ハ人形を持てり、○汝も人形を好む、○我も

甚これ好めり、○此男兒も人形を持てり、○吾男兒ハ人形

を持てり、○吾男兒ハ人形を持てり、○吾男兒

の遊ハ女兒と異なればなり、○老る牝雞鶩の子を多

く伴へり、○此鶩の子ハ皆水の



中子飛入り、○此鳥ハ其性水上は泳ぐことを好めり、○



北雞ハ其沈之溺せんことを恐れて甚
 憂ひ悲めり○然れども鷺の子ハ北雞
 の心を量り知らばして隨意に游べり
 ○北雞ハ何を憂ひ悲むと思ふや○北
 雞ハ此鷺の游水鳥あるを知らばして
 我子と思ひ悲めらるる
 ○爰も成長したる鷺あ



り○鷺の嘴ハ北雞の嘴より大よして其足
 は蹠あり故に水に入りて能く泳ぐことを
 得るあり
 ○此ハ何家あるを知り
 や○これハ學校あるべし數多の男女の子此家を通ふを



以て知らきたり○汝ハ小兒
 の遊歩場に出でて遊ぶを見
 たりや○數多の小兒出で
 走らも有り球を弄ぶも有り
 或ハ紙鳶を揚げ或ハ輪を廻
 して遊べり○男兒も女兒
 も學校までハ能く勉強せ

○能く勉強したる後ハ非ハ遊歩をゆるさるとも誠
 きことハあさるのあり○今此子の釣りたる魚ハ鯉
 あり○汝も魚を釣り得たるときハ能く心を用ゐよ釣糸を
 切らるることあるべし○天曇りて雨少しく降り來



り。○魚を釣るもハ、雨天のときを宜し
とする。○然り、少く雨降りて、風を
暖める。○汝ハ、魚を釣
るを以て、宜しき事と思ふ。○然り、魚
を釣りて、食するハ、悪しき事。○然らば
と雖、釣りたる魚を
弄びて、徒ら捨つる

ハ、宜し。○男兒と、女兒と、何
り。○これハ、學校へ行く途中あり。
○今、急ぎて、學校へ行かんと思ふ
がゆゑ、男兒ハ、女兒を助けて、走り



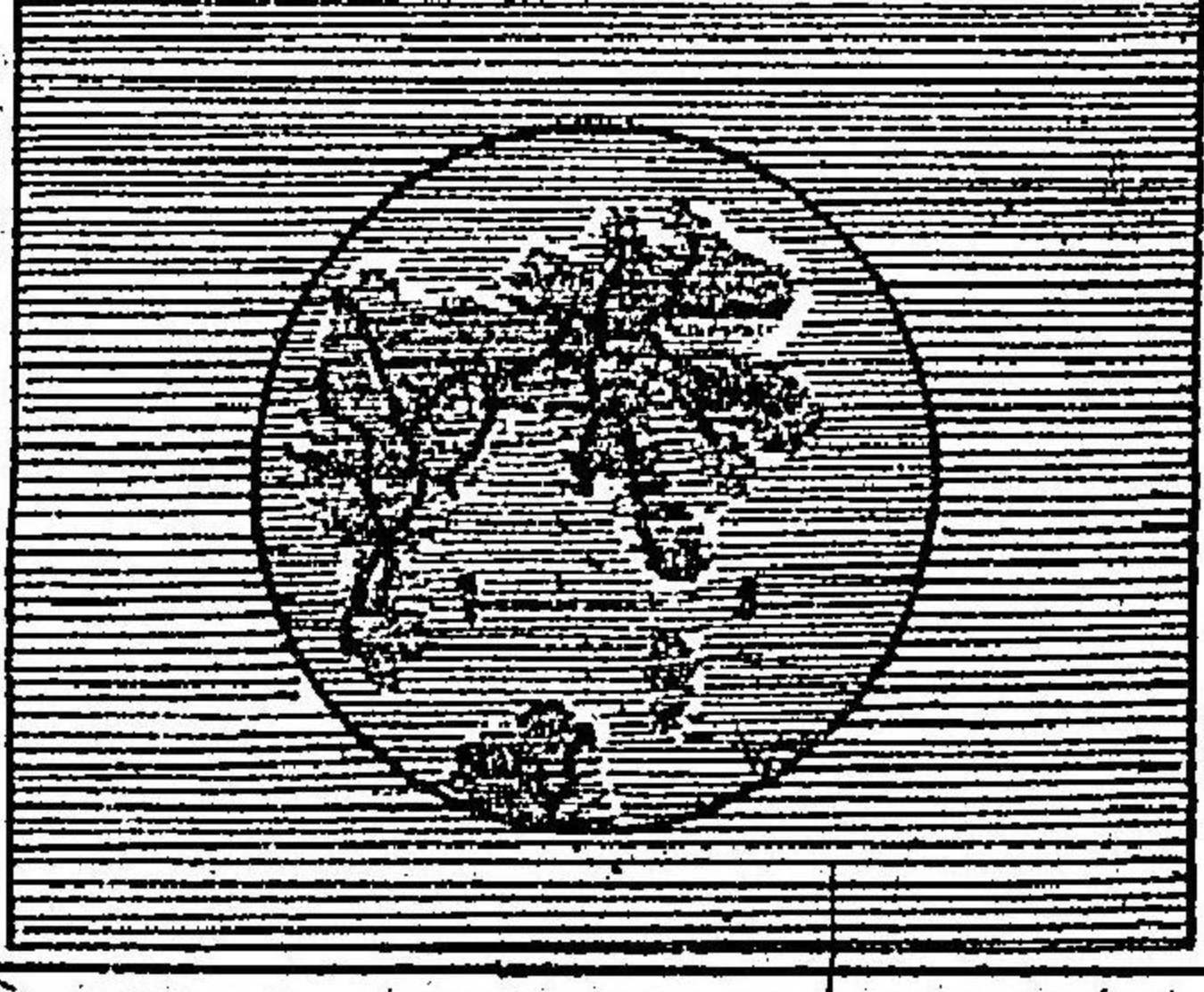
○此兒等ハ、學校へ行くを、樂と思へりや。○然り、此兒等ハ、
其性善きものなれば、學校へ行きて、
學問すること、第一の樂と思ふ。
○此馬ハ、柔和ある馬ゆゑ、
二人の小兒を、乗せて、歩めり。○此馬
を、ハ走ると思ふ。○此馬の前の一
足を、擧げて、あとの一足を、下さんと

するを見れば、走るハ、何ら徐歩あり。○前の小兒ハ、
手細を、両手に、持ち、たきども、其見ゆるハ、只右の手のみ、
り。○後の小兒ハ、馬より、落つることを、恐る。○ゆゑ、町の
小兒を、抱きて、を、走り。○此處ハ、工人の、作事場あり。

○數多の大人ハ、作事を事とせり○二人の小兒ハ、此作事場より、板に乗りて遊び戯居たり、一人の小兒高く上がり、一人ハ、低く下りたり○汝ハ小兒の傍に居る器を何ありと思ふや○これハ斧と鋸あり○汝ハ、此小兒等を善き小兒と思ふら○作事場より來りて遊ぶハ、善き小兒ハ、何らさるべし○今ハ、遊歩をべき時間と見え、學問をべき時間ハ、作事場より來りて遊び戯と、作事の妨をせらるハ、必し、向くべき小兒あり○汝等ハ、遊歩



の時も作事場より來るべからば、遊歩場にて遊ぶべし
第二我等の住居をる世界ハ、平なるものより、高らば實ハ圓くして、球の如きものあり、故に世界を地球といふ○此世界ハ、静なるやうに覺ゆれども、實ハ動くものにて、毎日一回つゝ、旋りて一年ハ、太陽の周りを一旋りせらるものあり○太陽ハ圓きものにて、世界ハ光と熱とを與ふるものあり○我等晝ハ、太陽を見せども、夜ハ、見ることなく○汝夜の太陽を見ることが得ざるハ、何ゆゑなるを知らざりや○夜ハ、太陽の方に向



せざるゆゑに見ることを得ざる
 あり。○月も亦圓きものなきと
 も、太陽及地球の如くは犬あら
 ば、○月ハ原より光なきものな
 すと、太陽の光を受けて始めて輝
 くものあり。○我等一同は草刈
 場へ出来たり。○小兒ハ刈りたる草の上へ坐し居て
 草を刈るを觀る。○枯草ハ柔なるものなきハ、此上ハ遊ひ
 戯るくも宜しきあり。○草ハ牛馬の食ありゆゑ、牛馬を
 畜ふ家にてハ夏の間は刈りて、これを貯ふ。○狐ハ犬よ
 似たる獸にして、頭平は鼻と耳とハ尖りて、尾ハ甚長ハ。○



此獸ハ穴中へ住し晝ハ隠れて出ては
 夜に入しバ穴より出でて、田畠の傍
 を遊行し。○狐ハ食を貪る獸にして、多
 く雞の雛を食ひ又好みて桑の実櫻の
 実等を食ふ。○雞を捕ふは穴は持ち
 行きて、こきを食ふ。○もく犬を見ると
 きハ穴の中へ逃げ入
 りて出づることあり是ハ穴に入らざれば
 直に犬は噬殺さるが故あり。

○蝸牛との歩ハ足なきゆゑ、歩むこと能
 むは只匍匐するのこあり。○この歩ハ背の



上は鼓有りて物は恐ろしときハ其中は縮み入る○蝸牛の動くときハ四本の角を出ど其の中は二本の長き角の先は目有り短き角の下は口有り○此虫ハ冬ハ土の中は伏し春の至るを待ち出るあり
 兜と女兜と驢馬の在るを見たりや○男兜ハ驢馬に乗らんと返○何如も汝に乗る易らるべしと思ふなり○驢馬ハ小き馬あれども小兜ハ乗難なるべし○遙の向ひは荷車有り○汝ハ此荷車を何よりと思ふや○遠き處ゆゑ慥見分くること能はれども畠の小路は何るを見せ



○汝ハ此處は男

バ穀物を載せたる車あるべし
 ○此圖に画きたるものハ何ありや○大人と小兜と二人水中に立てり○此等ハ何を食ふや○此人々ハ魚を漁るあり大人の釣りたる魚ハ大なるゆゑ強く曳のハ糸切まんことを恐きて遠く曳き擧げざるあり
 ○男兜の持ちたるものハ何ありと思ふや○そは網の類にてたまといふものあり○男兜ハ此網を以て魚を捕へんと返
 ○大人の脇に懸けたるハ何あるぞ○これハ蓋のたる籠にて



○此圖に画きたるものハ何ありや○大人と小兜と二人水中に立てり○此等ハ何を食ふや○此人々ハ魚を漁るあり大人の釣りたる魚ハ大なるゆゑ強く曳のハ糸切まんことを恐きて遠く曳き擧げざるあり

其中魚を入るしあり。○此人の立る處ハ深しと思ふ
 う。○人の膝まで水入らざるを見れば甚深くらげも
 深水ふきバ二人とも立つこと能はざるべし。○此河は架
 したる橋あり汝ハ此橋ハ何にて造りたると思ふ。○橋
 ハ木と石と鐵との別ハ何れもこきハ木にて造りた
 る。橋なり。○汝ハ此男兜を何歳許ありと思ふ。○此男兜
 ハ十歳以上あり。○此男兜ハ善き人
 ありと思ふ。○否學問をもせむ。又
 遊歩をもあさびして休みをもるゝに
 急りもの知らるしあり。○此男兜
 ハ何れ倚りて何を見る。○此男兜の倚りたるものハ大

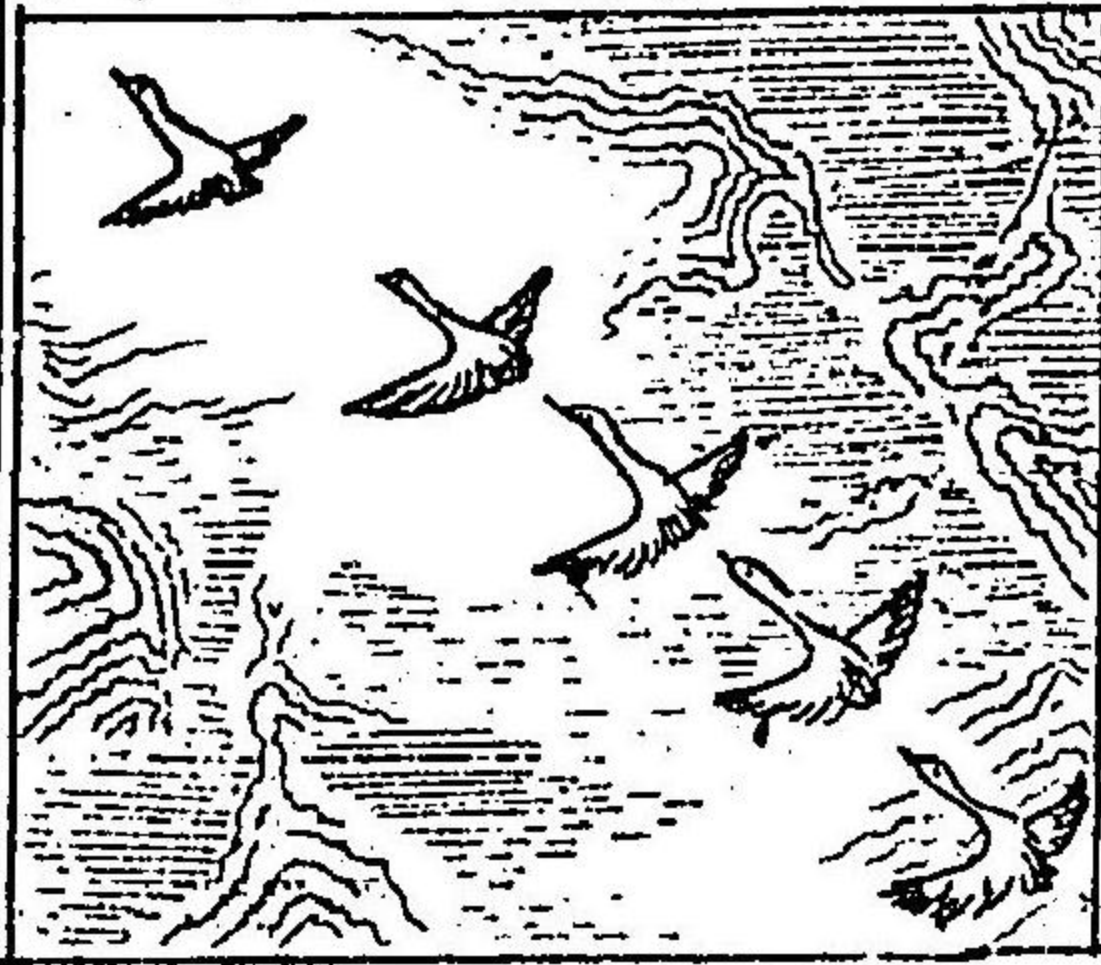


ある石の柱なり。又此男兜ハ何をも見は。只天をあぐむる
 あり。○總て小兒ハ勉むべき時もあり。遊ぶべき時あり
 あり。○此小兒の如く常ハ勉強をなさざるときハ成長の後
 人ハ勝ることを得ざるなり。○爰ハ又急愒の小兒
 あり。○彼ハ學校へ行くと云うが
 何ゆへ學校へハ行らば。て途中
 遊ぶ居るや。○未學校へ行へば
 時刻来らばや。○學校みてハ既ハ替
 古始りたれば。此小兒もとく行くべ
 き時刻あり。○然らハ何ゆゑ爰止
 まり居るや。○彼ハ犬を乗り。又他の急



りものと遊むんと思へハあり。○彼ハ學校ヨ行くものあり
ハ其書をバ何處ニ置たるヤ。○書をハ自分の家ニ忘れた
るあり。○されハ學校ヨ行きたりとも替古をすることを得
ぞ。○善き小兒ハ書を大切ヨありて學校ヨ行くを好み替
古の時間来れハ決して途中ヨて遊ヒ居ることなく學校
ヨても能く勉強して學ぶゆゑ其等
級屢進むあり。

雁の列をあつて行く圖あり。○見
るべし。一羽の雁導をさせハ其他の雁
ハこれヲ隨ひて飛行くを。○是レ何處
ヨ行くヤ。○或ハ水邊ヨ行きて葦の間



息み或ハ田ヨ下りて食物を求めんとはるあり。○此鳥
ハ冬ハ北ヨり南ヨ来リ春ヨ至ルハ又南ヨリ北ヨ歸ル故
ヨ夏ハ此地ヨ居ることあり。 ○地ヨ主ヒ出づる物



み草と木とありて木ヨ灌木と喬
木とあり。○草ハ其幹葉一年限リ
ヨて枯るゝものあり灌木ハ高一
大ヨ出でづと雖其幹ハ枯れざる
ものあり。○喬木トハ成長して高
大ヨ至るものを云ふ。○此三の者
を合せて植物といふ植物ハ生を保ちて能く成長し又死
してハ枯朽るものありと人ノ如クは物を思ふ根ハ

食物を、地下より吸ひ、葉ハ呼吸をれども鳥獸の如く、



動くことある。○鳥ハ二つの足と二つの翼ありて多くハ空中に翔る又水上に住むものもあり。○獸類ハ四足ありて、層々長きをあり。○此鳥と獸

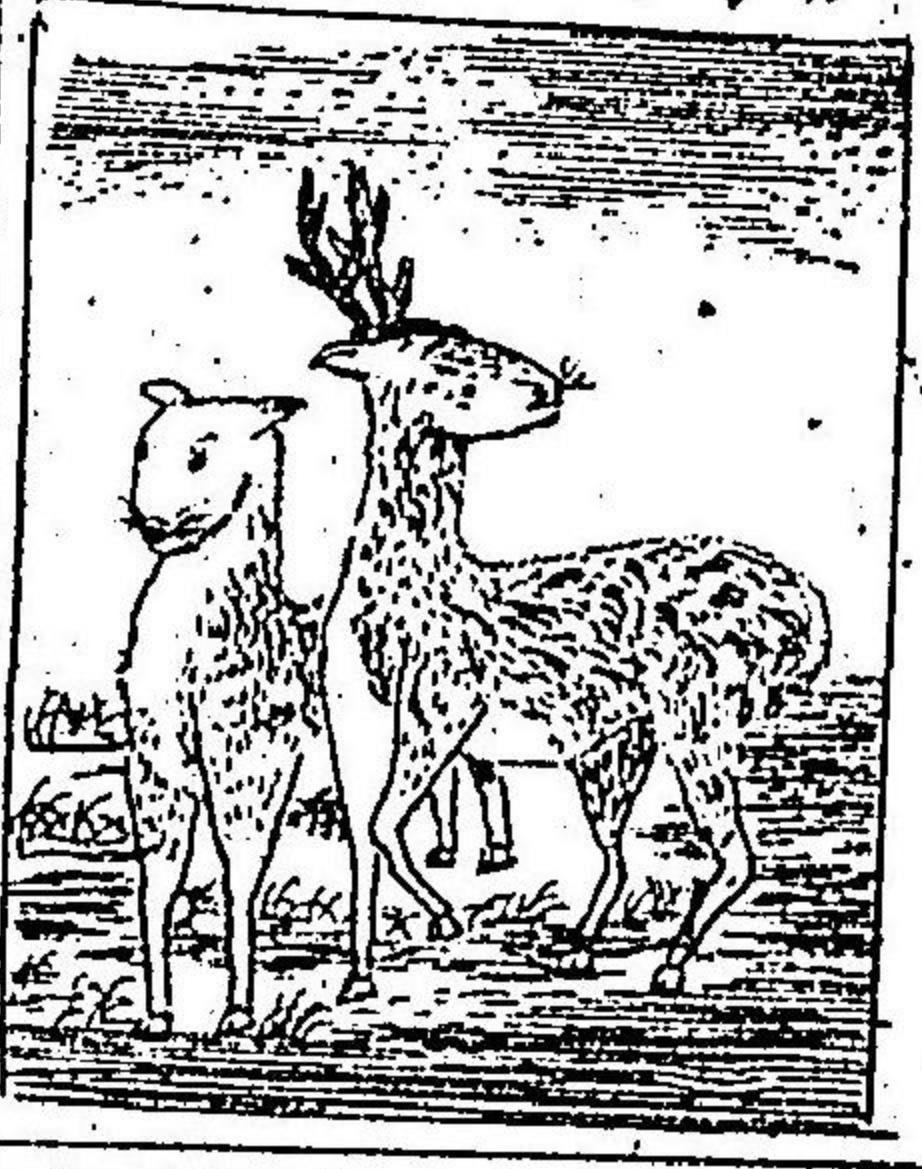
とハ、身體を意に従ひて動かせども人の如く言ふこと能はぬ。

汝ハ實のる草木の種類を知れりや。○其莢を見て、豌豆と蠶豆とを、知り、穂の形を見て、稻と麥とを、知るべし。○草木ハ皆種子あり、豌豆蠶豆莢の中に



在りて、梨李橙ハ肉の中より、○種子の、食物とあるものハ、稻、麥、豆、黍粟の類あり、肉の食物とあるものハ、梅、桃、梨、李、蜜柑の類あり。○草木ハ、皆種子より、生じ、濕ひたる土の中より、種子を置くと、ときハ漸く膨脹して、遂に破裂し、其牙より、芽と根とを生じらるあり。○鹿ハ山林に住する獸

あり、此獸の、牡も、枝を生じたる、角あり、牝も、角あり、其色ハ、茶褐色にして、白き斑あり。○鹿ハ、長き足ありて、走ること甚速あり。○常ニ草木の葉を食し、或ハ田野に來りて、穀物を食することあり、此獸の角ハ、堅くして、器を造るべく、又



其皮ハ席とあるべし。○此男兒ハ悪くき心のものあり、汝ハこの男兒の持てる帽の中より物を見たる。○此ハ柿の實あり。○此柿の實を垣を踏えて隣家より盗み取れるあり。○今此男兒柿の實を盗み取り垣を踏えて出てんとする所を數多の大どもこれを見て男兒を追ひうけ一匹の大男兒の裾を咬へり、よりて男兒ハ垣を踏え去ることを得。此時盗みたる柿の實を捨てあバ、犬ハ裾を放つべけれども、此男兒ハこれを捨つること能はば、他人の物を盗むハ決して為まりきことなり。善き小兒



ハ自分の物よりらされバ取ることあり。○常は行狀の正しきものハ幸多く正しからざるものハ幸を得ること能はざれば、汝等他人のものを見て、何如あるものありとも、必これを得んことを欲することあり。○愛ふ四箇の雞と、穀倉とあり。○汝見る所にてハ、これのこありや。○否家の後、松あり、垣を寄せて立てたる藪あり、雞の飲水を入るる水鉢あり。○汝ハこの鉢、水ありと思ふや。○必水あるあるべし。○何を以て、水の何るを、知れる。○此鉢ハ少く傾きて、一邊

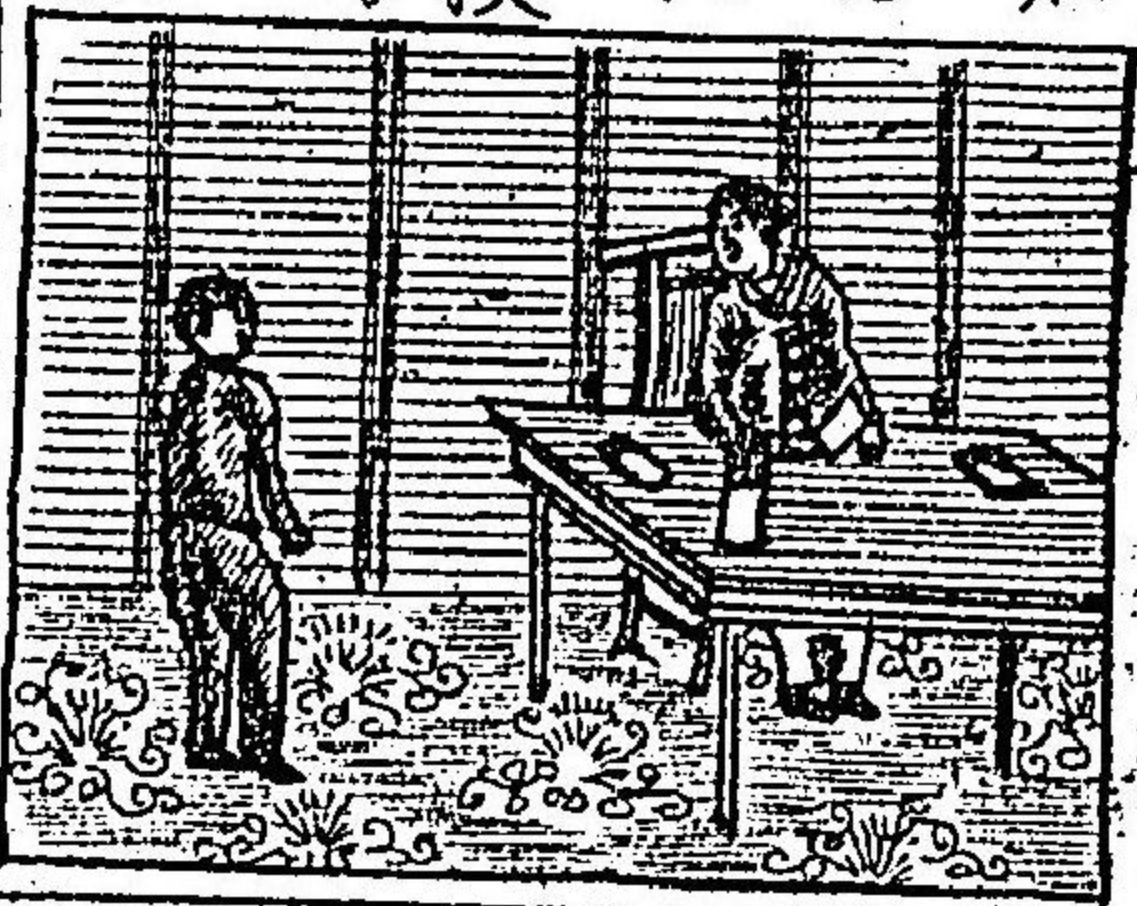


の、緑高く出でたるを以て水の、あるを、知れり、水ハ傾きた
 る、鉢の中よても、決して、斜ナカ傾カクくことある、其表面ハ、必一
 様ヨウみ、平テイあるものあり、○汝ハ、雞の水を、飲むを見、雞ハ
 半馬キバの如く首を下げて、飲むこと、能む、ゆゑ、一滴ヒツ口よ
 入れハ首を擧げて、咽ノドも、飲み下あり、
 ○此處ハ、何

如ある、呀ありや、○此處ハ、穀倉の
 傍あるべし、雞ハ、巢ス上らんとし
 て、梯子ハシゴを、傳ツタひ行くあり、○梯子に、
 横木ヨコキあり、これハ何ありや、此横木
 ハ、梯子の、級キウあり、○汝ハ、雞の巢を、
 見たるか、○巢ハ、隠れて、櫓ウラの裏ウラあり、ゆるゆゑ、見ることを得



○汝此處よ来れ、汝昨日失ひたる、呀の、書籍ショクシキを、尋
 ね得たりや、○否、未、尋ね得、○汝ハ、大庫の中を、探ウツ見、見
 や、○幾度イツタビも、探見ウツミされども、其處そのところよ、あり、○汝、今、一度、尋
 ね見よ、書籍あけれハ、學ぶこと、能む、○又汝よ、筆ありや、
 ○筆ハ、命いのちせられ、ゆる如く、炭庫の上よ、置きたり、○汝、筆の
 用もちの、かさを、知れりや、○否、未、用ひるを、知
 らば、○汝、今、其筆を取来れ、汝よ、筆の、用もちの
 方を、教おしふべし、筆の、用もちの、かさを、知らば、
 ハ、字を、習ふこと、能む、○汝ハ、今日、學校
 へ行きたりや、○學校よ、行き、終ハジマ日ヒ學びて、
 先刻さきどき歸り来れり、○然らば、座よ、就ツきて、復また

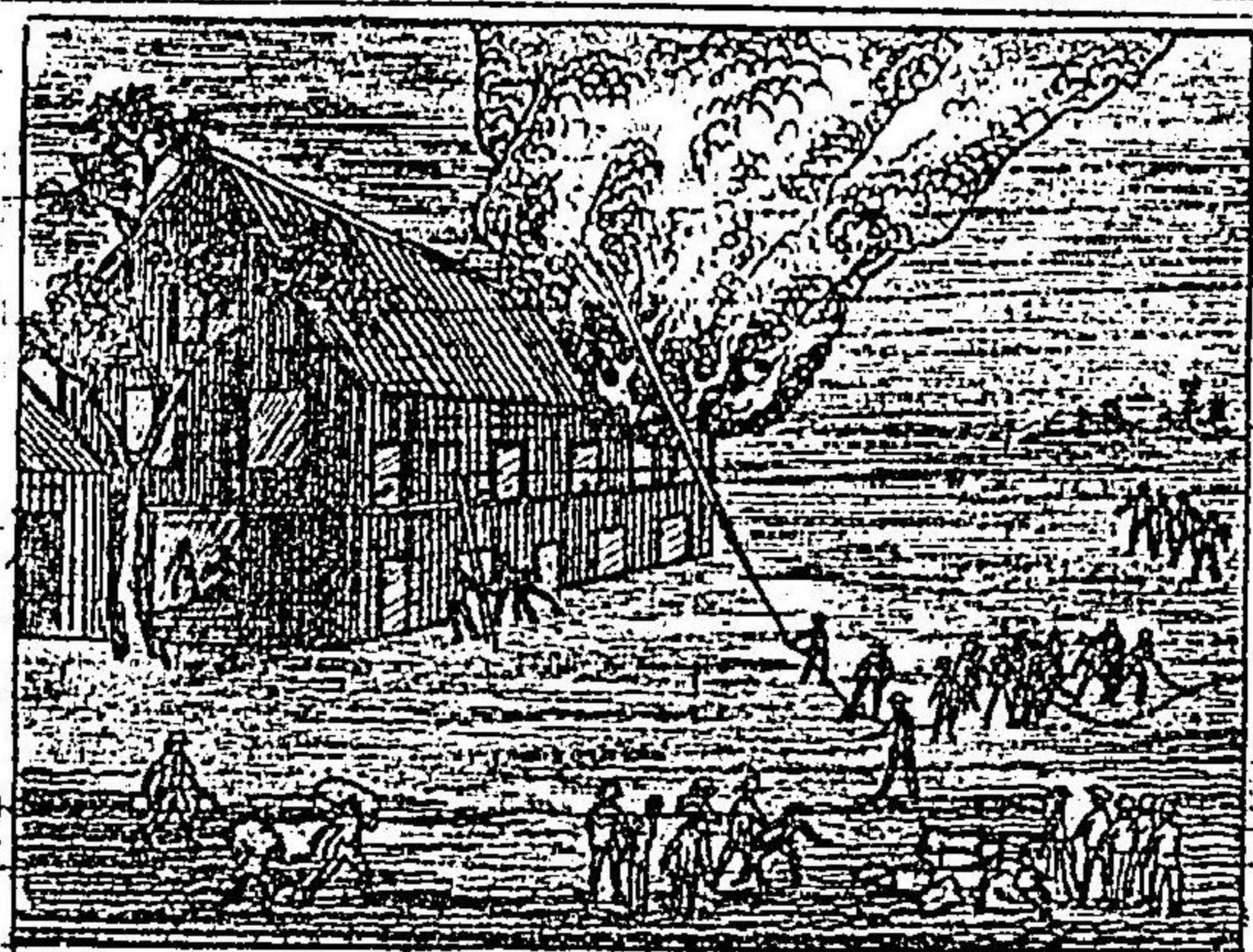


讀せよ、凡て學びたる所を、常々復讀して、決して忘るべ
からん。

第四岸の上より二人の少年ありて三艘の船の岸より着くを
見居れり。○三艘共、帆を十分よ張り
て、播の上より旗を揚げたる船あり。○一
人の少年云、我が朋友ハ、去年先の船よ
乗りて外國よ、往きたりしが、日を數ふ
れば、其出立せし日より今日まで、殆
一年も及びて、歸り来れり。○彼の両親ハ、
日々彼の歸るを待てり。○今日無事
顔を見ることを得て、何許の喜ばし



らん、まゝ、彼男も、父母の恙なき顔を見、定めて、大に喜ぶ
べし。○彼船ハ堅固なる船よて、風雨よ逢ふも、破損お
く、無難に歸り来れば、船中の人々ハ、皆此船を忝く思ふ
べし。○人々の外國よ行くハ、學問、或ハ貿易をありて、我國
の利益をあることと欲するがゆゑなり。○總て、
鳥ハ嘴の長きものと、短きものとあり。○此嘴よて、食物を啄
む。○鳥ハ、穀物を食するものとあり。○鳥の目
又ハ、蟲を食するものとあり。○鳥の目
ハ、面の両側より、ゆるゆる、一時、両方を
見ることが得るあり。○林中に遊ぶ鳥
を、林禽といひ、水上に遊ぶ鳥を、水禽と



休む間ハ、道を行く間も、書を読むことあり、又牧場に至りても、

○此圖ハ、画きしるハ、柔和ある牛
 まして、此小兒ハ、隨ひ、徐々歩めり、
 此小兒ハ、今牧場ハ、牛を曳き行く
 所あり、○此小兒ハ、何ゆゑハ、歩み
 あらう、書を讀むや、此小兒ハ、其性
 極めて賢く、常に學問すること
 好めども、家貧しきゆゑ、學校ハ
 入ること能はば、日々牧場ハ
 行くあり、然れども、學問の志深き



て、刈るべき時よ至りたるに、雛ハ未自由ハ、飛ぶこと能
 をび、一日親鳥食を求めんとて、飛び去り、暮ら及びて歸り
 来れば、雛告げて、今日此島主ある農夫其子と、共み来りて、
 明日ハ、近隣の人を雇ひて、此麥を刈り取りんとて、歸れり

人よまさりて、貴き人とあるべし、
 ○惡しき小兒ハ、日々學校ハ行く
 と雖、能く勉強せむして、遊ぶこと
 のみと、好むゆゑ、後ハ、愚ある者
 とありて、貧賤ハ、其身を終るべし、
 ○雲雀巢を、麥島の間に造
 りて、雛を育てたり、○麥ハ、已ハ、熟

と云ふ親鳥聞きて、彼近隣の人を雇てんとあが、未急よ
 ハ、刈取るべうとて、明日ハ此處よの
 りとも、恐るゝも是ら、とていひ、其翌
 日も、亦食を求めんとて、飛び去りた
 り。○かくて日の暮るゝ頃、親鳥歸り
 来れバ、雛又告げて、今日も農夫其子
 と共、来りし、近隣の人も、同トく
 已タ作りたる、麥を刈るに暇な、とて
 れバ、明日ハ朋友、親族を頼とて、刈り取らんとして、歸れりと
 云ふ、親鳥ハ、彼尚他人を頼むの心、何ぞバ、明日も憂ふるに
 足らぬと云へり。○さて、其翌日、親鳥例の如く、飛去りて、歸



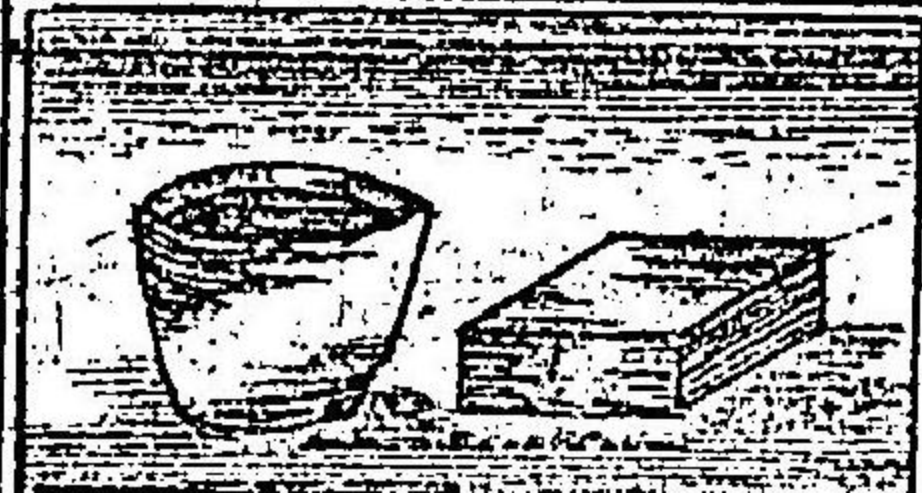
り来るも、雛の云ふ今日ハ、農夫父子米りて、かく麥の熟せ
 るゝへハ、最早他人の力を待つゝ暇な、とて、明日ハ、自刈り
 取るべしとて、歸れりと云へり。○親鳥ハ、これを聞きて、然
 るバ、我等も疾く、此處を立ち去るべし、農夫が自刈り取ら
 んと決したるうへハ、必日を延むべうとて、いふとぞ、
 ○親鳥の言實、理あり、他人よ依りて、事を成さんとす
 者ハ、恐るゝも足らぬれとも、自為さんと決する時ハ、須臾
 も猶豫せざるべけれバ、ありされバ、人々、皆自為さんこと
 と志して、他人の力を頼むべうとて、
 第五 今花園ハ、善き種子を、蒔きて、善き植物を生ぜしめ、美
 しい花を開らしめんとするに、園中ハ、蔓れる雑草を、抜き

ハ、花を、開らしめんとするに、園中ハ、蔓れる雑草を、抜き

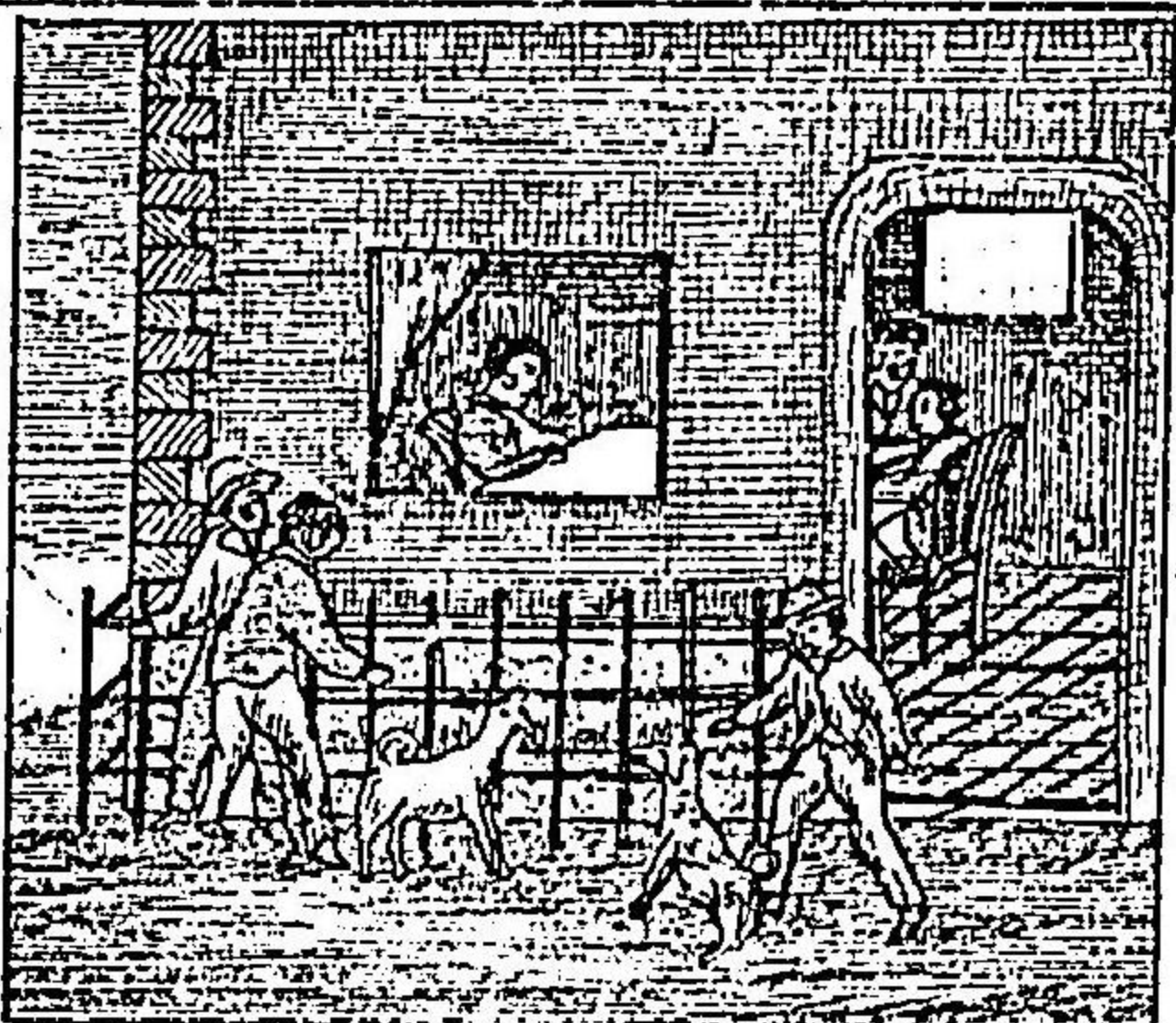
取らざるべきハ、時たる種子を蓄して
 成長すること能わざらむ。○今此處
 花園の雑草を、抜き去る圖を出
 して、以てこれを示さん。○地ハもと
 よきものあれども、善き種子を蒔
 むざればよき植物を生じ、美しき花
 を開くこと能はば、又芽既ハ萌出た
 るときハ能く培養せざれば、生長ゆること能はば、雑草ハ
 これも、及して種子を蒔うざれども、自生長し、これを抜き
 去らざれば、大ハ蔓りて、善き植物を害し、つひハこれを
 枯らし盡すに至るべし。○人の心ハ、もと善きものあれ



ども、善き教を聞きてこれハ従わざれば善き人と成り難
 し。教師の教ハ即我心ハ、種子を蒔くも同し。故ハ心を用ゐ
 てこれを育ひ能く成長せしむべし。然れども不正の心の
 生じ易きこと、雑草の如くあれバ、心ハ時きこる善き種子
 を、害すべきものハ、勉めてこれを抜き去らば、あるべし。○
 此れを抜き去ること、を怠りて、成長せしむるときハ、
 終ハハ中ハ萌せる、良心を害して、これを枯らし
 盡し、に至るべし。○汝等善き人と、あらんことを
 欲せば、此人の、雑草を抜き去るが如く、勉めて不
 正の心を抜き去るべし。○爰ハ圓き器
 と、四角ある器と、入れざる水あり、もと水ハ同



トけれども、其體の形も由りて、或圓く或四角ある形とあり、○人も、小兒の時ハ此水の如く、善き友と交りて、善きことを見聞けバ善き人とあり、又惡き友と交りて、惡き



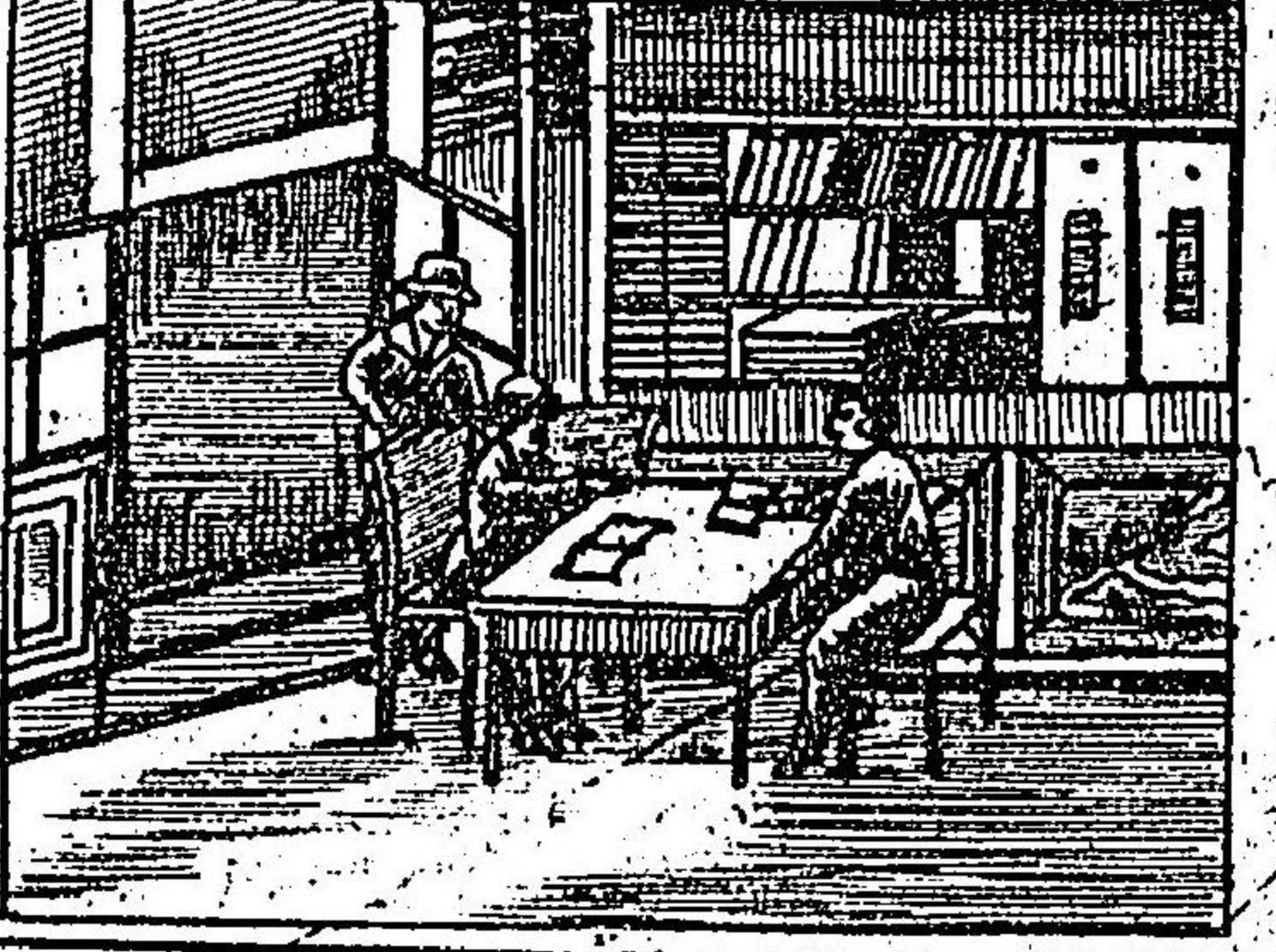
ことのを見聞けバ、惡き人と交りて、○家の内外も數多の、小兒のりて、其遊ぶべきの、各異あるを見るべし、家の内なる小兒ハ、日々學校にて學びたる所を、家歸りて、其友と互に問答して、これを樂とす、此等ハ他日必賢き人とあるべし、又外も集り遊べる小兒ハ、學校も行かざる者と見えて

犬を噛カと合ア棒ボウを打ウチ揮ツり無益ムエキの遊アソびをさせり、此等ハ後日、必愚カマエあるものとあるべし、汝等賢き人とあらんと思ふに、能く心ココロを用モチゐて、常々善き友と交り必惡アき小兒等と遊アソぶべからず、○汝等事の正ただしむべきを知るべきに、たゞ他日利リあることと思ふとも、決して行イふべからず、又惡ワき業ウヂをバ、假カも心ココロも行イふことを思ふべからず、若カ心ココロも行イふことを思ふときハ、縱タ令ト事ハハ、出イさばとも、既スも行イひたるも、同ドと知るべし、○凡ソて、惡事ハ、虚言ウソコトより始ハまるものあり、されバ暫シく其身ミハ、利益リキありとも、決して、虚言ウソコトにべからず、虚言ウソコトを以て、得エる利益ハ、他人の物を盜ヌみたると同ドく、終ニもハ、其身ミの害ガイとあるべし、○むろし、

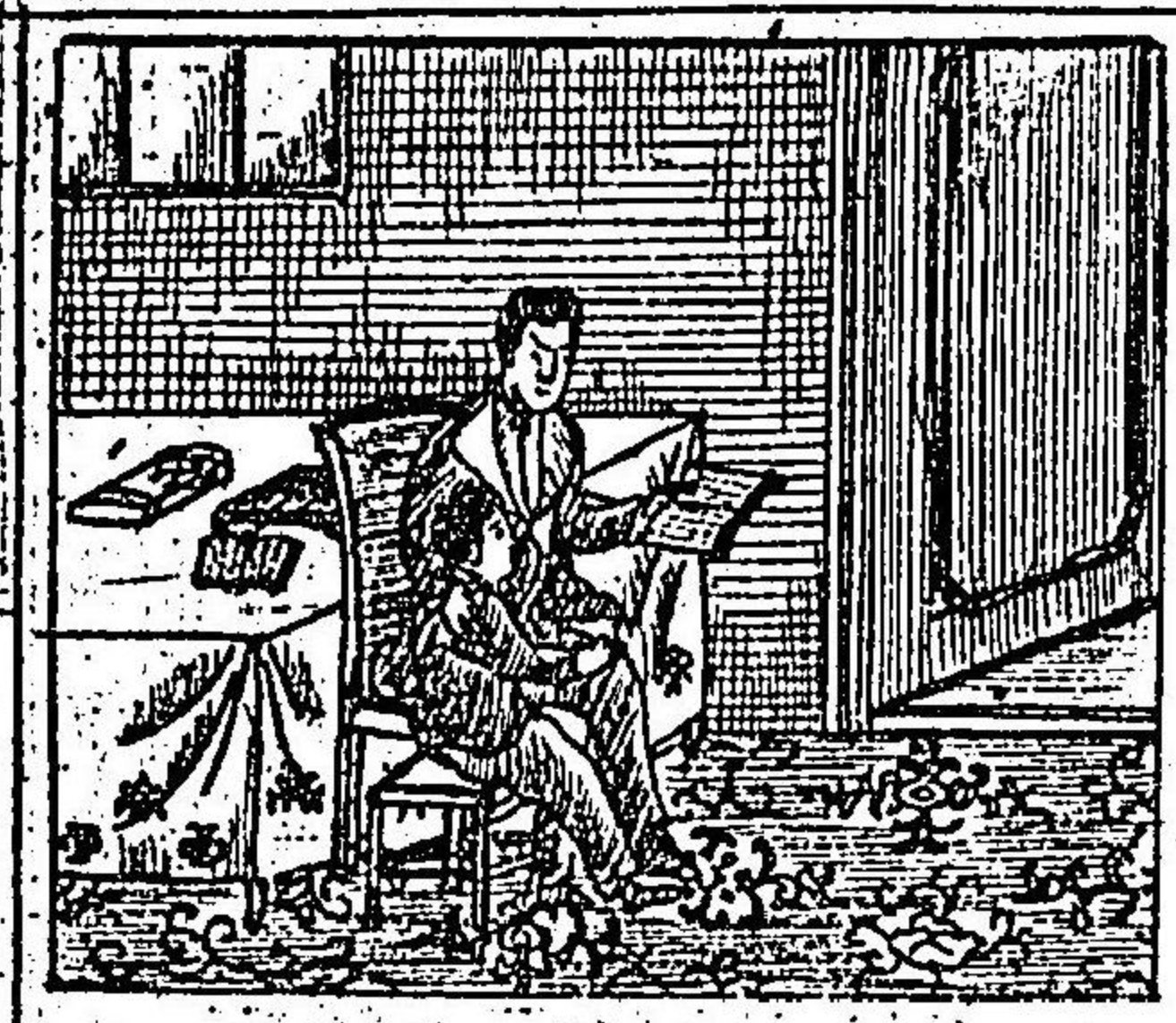
一人の男兒有りて、毎、狼来れり、狼来れり、誰か出で、救ひ給へと、大に呼びて、途を走れり、これ、真、狼の来れり、よ、あつて、他人の出来りて、救むんと、するときは、欺き得たりとて、大に其人を笑ふを以て、戯とするあり、○斯くすること、度々ありしが、ある日、真、狼来りて、此男兒を、食むんと、男兒、大に呼びて、狼来れり、救ひ給へといふと、誰も亦例の虚言あるべしとて、これを救ふものあり、つゆ、終、狼のため



み、嘘み殺されり、故、平生、戯も、虚言を以て、人を欺くもの、適、眞實のことを、話すと、信とあはれもの、あつて、されば、常、慎むべきことあり、○此處と、何如ある家ありと思ふぞ、○これ、ハ、書肆あり、爰、三人の男あり、帽を戴きたる、二人の者ハ、書籍を、買むんがため、此處、よ、来れるあり、一人ハ、既、一冊の書を、購ひ得て、去らんと、一人ハ、机上の書の、價を定め、居るあり、○今、二人の書籍を、買ふハ、何の爲ありや、家、歸りて、これを、理會、己の知識を、増さ



人といれむあり書あければ、智識を増へこと能はば、智識
無きときハ、國の利益を興へこと能はば、故も志ある者ハ、
有用の書をバ、金を惜まばして、これを購ふあり、
此圖の男ハ、手も持てる、書を讀みて、其義を小兒も語り聞



かゝむる、所あり、○汝この小兒ハ、能く
心を用ゐて、其話を聞くと、思ふ、○
此小兒ハ、心を用ゐて、其話を聞くと、
見えて、此男の語ること、を深く考ふ
るさまあり、思ふ、今聞く、所ハ、此書
の中の、尤、大切なる箇條あるべし、○
凡て教を人より受る者ハ、決して倦怠

の心を生じべからば、倦怠の心を生ずるときハ、直も其類
色も見ハるゝゆゑ、教ふる者も、亦、これを知りて、懇も教
訓はることあり、されば、教を受る者ハ、皆、此小兒の如く、心
を用ゐて、其話を能く考ふべきことあり、

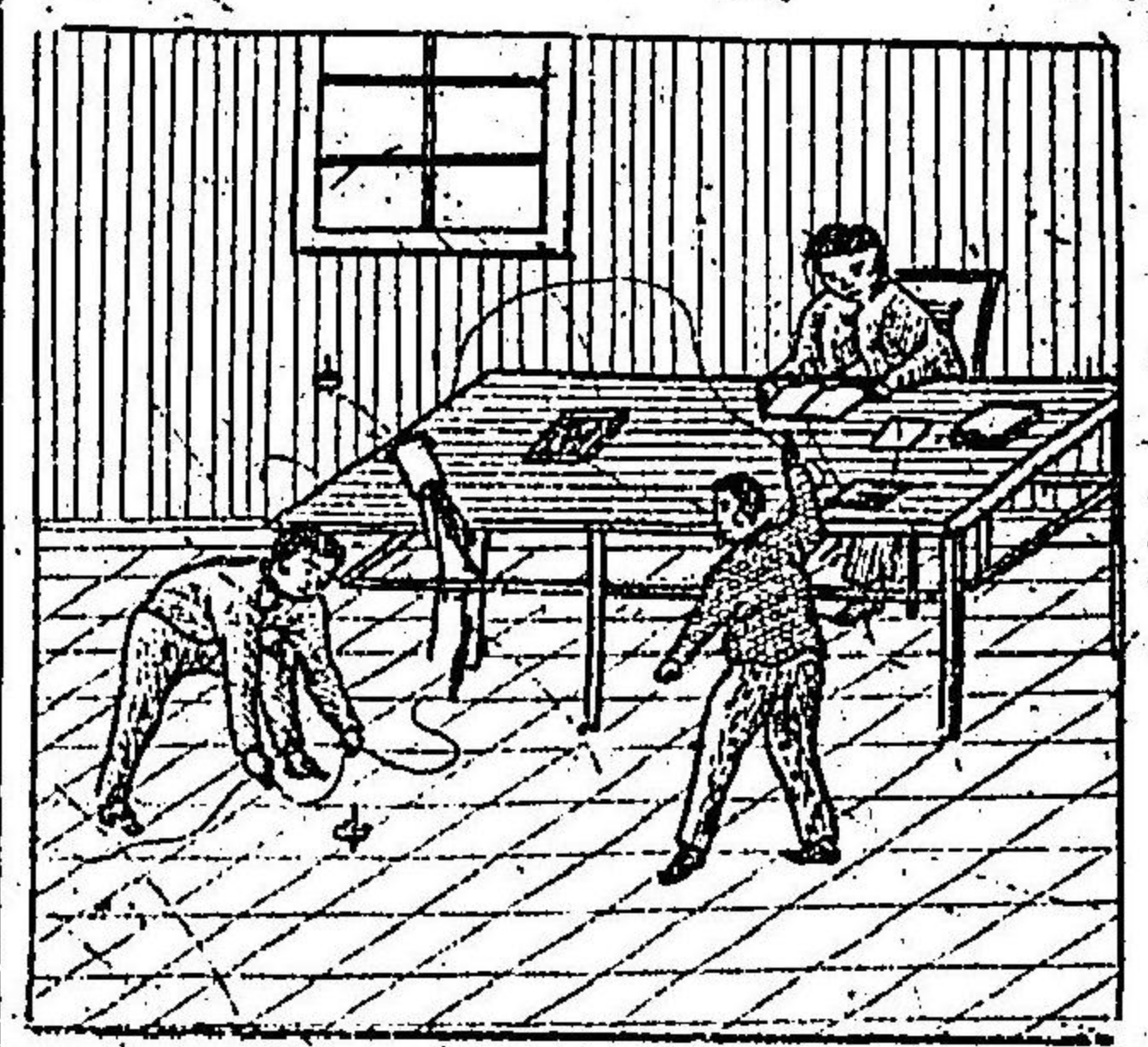
第六 汝ハ猫の兒を愛はらう、又、犬の兒を愛するらう、○我ハ
猫もて、犬もて、其遊び戯るゝ所
を見ることを好めり、○總て、獸類も
遊び時ハ、小兒の如く、遊び戯るゝこ
とを好むものあり、中も、猫の兒ハ、
繩又ハ、鞆を弄びて、能く戯れ遊ぶ
り、○然れども、獸類も、年老ゆれハ、遊





び戯ることを好まば人より年長けらる後まで遊び戯るゝバ耻づべきことよけらばや○されば老らる猫も其兒の戯れ遊ぶを見ることを好めども其身も觸るゝことをハ喜バざるあり○老人も小兒の遊ぶを見ることを好めども其身も觸るゝことをハ喜ハざるものゆゑ小兒ハ遊び戯るゝとも老人の身も觸れ又ハ其椅子机あどもハ決して手を着くべからず ○此小兒ハ學校よて善き生徒あり○汝ハ此小兒の學校よて書を読むを聞きたりや○此頃始めてこれを聞きたり○此小兒ハ何の書を読むや○彼ハ小學讀本を讀

めり○其讀む所の小學讀本ハ何の巻ありや○彼ハ巻の三を讀めり我ハ此の小兒の如く能く書を読むものを好む能く書を読むもの外後よハ善き人とおれハあり○若し學問となく智慧となくバいづてハ善き人とあることを得べき善き人とあることを得ざれば他人も愛せらるゝこともなく又貴むるゝこともあらず ○爰み、三人の小兒あり、一人ハ机に向ひて書を読み、二人ハ獨樂を廻ハして遊べり、獨樂を廻ハして跳り旋るゆゑも机も觸れて、其上の筆



筒を倒せり書を讀み居たる小兒の心ハ此二人の戯れ
 遊ぶを何如イカ騒サカごとく思ひ居るあらん定めて此小兒等
 の他處トコロも行かんことを願ネガふあるべし○總て人ハ自好ま
 ざることをバ人ヒトも亦好まざるものと思ひ遊び戯るゝにも
 決して人の妨サマシとあるべきことをあはべゆべ又自好む
 ことハ人ヒトも亦好むものを知りてこれをあづ人ヒトも譲ユツるべ
 しされバ古き教へも己ミの欲せざる所ハ人ヒトも施ホシふこと
 ありれといひ又已達タせんと欲せば人を達せしめよとも
 云へり○爰ココも遊歩に出でんとほる小兒あり○游
 ハ此小兒の善きと惡イきと知れりや○我ハ亦其人と
 ありと知らばと雖今遊歩イナモ出でんとするに其母ハハも呼ヨび



返されて速スく歸カり来り否イひ色イロあ
 きと見れば善きものあるべしと
 其母ハハも呼ヨび返されてこれと厭イ
 ふ心の色イロも見ミゆるを必カナラ善きと
 のよゆべと知るべし○此小兒
 ハ未マダ學校ガクに入らざるが○此小兒
 ハ五六歳サイも過スぎばと見ゆれば未
 學校ガクに入らざるべし我ハ此小兒の學校ガクに入りて遊
 歩の事を好まざりて幼コめて書カキと讀ヨクみ成長チカの後ノチも其善
 き人たるを失ナシハざるんことを願ネガふあり○此圖コトも画
 けるハ何物ナニモノありや○これハ魚イサあり○汝キミハ生ナきたる魚イサ也

其身を保つべし、火と過つことあり、○病を生ずることあり
 うれと、○妹ハ吾兄寒暑を犯すべし、又久しく他郷に止
 まるべし、らびと云ふ、○兄又云ふ、予彼郷に到らば速に書
 と以て、安否を報ずべし、汝も亦其安否を報ぜよ、予ハ他郷
 に在る間ハ、只汝の消息を得るを以て樂と、あはべきこと
 ○汝等此二人何如あるものと思ふや、○これハ同胞の孤
 あり、孤とハ幼稚のときハ、両親を喪ひたるものを云ふ
 ○此二人早く両親を喪ひたるゆゑに、今自身を立ん
 とほるあり、○今此男子ハ、遠方行きて、幾年妹と相見
 ることと、得ばとも、文字と知れるゆゑ、互に書簡と贈答
 して、其安否と審みぬることと得べし、○此二人文字



を知らば、何に困りて、音信を通はるとも得べき、○
 汝等此二人の事を見て、能く文字と習ひ、幼めて、書簡と作
 ることと、學ぶべきあり、○むかしある家ハ、兄弟の
 小兒あり、兄ハ七歳にして、弟ハ五歳あり、○兄ハ其才最敏
 にして、心も亦優れ、きものあり、弟ハ良き性質なれども、尚
 幼きゆゑ、未世間の事と知らば、輒もそれハ、過りたる舉動
 とおぼしむることあり、○ある日、兄弟とあ
 り、郊外に出でて、遊べるに、ある家の
 籬に、小鳥の巢あり、親鳥ハ人の來る
 事驚きて、飛び去りたり、兄弟ハ、巢の
 中を窺ひ、見るに、雛三羽あり、弟ハ悦

ひて雛を取りて持ち歸らんといふを兎にこれを止めて、
親鳥の子を愛するは父母の我等を愛し給ふは同じ今汝
この雛を取り去らば親鳥の悲何如あらん若我家に入り
来りて我等兄弟を捕へ去るものあらば父母の悲を給ふ
こと幾あらんまゝにや雛ハ親鳥の養ふ由りて生長する
ものにして今人の手にかりふに決して育つことある
べからばされば今この雛を取らざることよけずと諭し
けり然れども其理を服して兄の教を隨ひたり○此の鳥
の雛を取らんとほころひ殺生するに非ざるも其理を論
じればあぐの如くまゝにして無益に殺生するをや○されば
殺小き蟲たりとも無益に殺さざらば世の理を知らざる

者ハ小き蟲を殺さざるを以て些細の事とせり實は些細の事
に似たりと雖これを殺さんと思ふ心も即些細の事あり
らばこの心既に慈悲を失ひたるあり慈悲を失ひたる心
漸長びるに至らば畜類を殺すのみならず終は人
を殺すの大悪にも陥るべし豈恐きざるべけんや○故に
殺生を誡むるハ慈善の人とあるべき階にして終は人類
まれなる善人ともなり身の幸福を得るに至るべし

小學讀本卷之二終

小學讀本卷之二終

橋本門人 讀
部 糺
山 齋
地

